

国分寺駅北口再開発ビル公益フロア

基本計画

平成28年7月

国分寺市

目次

1. 基本計画の位置づけ.....	1
1-1. 計画策定の背景と目的.....	1
1-2. 公益フロアの基本コンセプト.....	2
(1) 基本理念・基本方針.....	2
(2) 求められる5つの機能と整備方針.....	3
2. 基本計画の前提条件.....	4
2-1. これまでの検討経緯.....	4
(1) 市民意見の概要.....	4
(2) 公益フロアに求められる施設・機能.....	6
2-2. ヒアリングにおける課題の抽出および各施設の役割整理.....	8
(1) ヒアリングの位置づけ.....	8
(2) ヒアリングの実施.....	8
2-3. 前提条件の整理.....	11
(1) 担当課の意見整理.....	11
(2) ホールスペース・1階インフォメーションスペースの検討.....	13
3. 設計と条件.....	19
3-1. 設計と条件検討の位置づけ.....	19
3-2. 各施設の設計と条件.....	20
(1) 「集う」：民間活用スペース1（カフェスペース）.....	20
(2) 「感じる」：ホールスペース.....	21
(3) 「知る」：行政コーナー.....	22
(4) 「学ぶ」：民間活用スペース2（学びの交流スペース）.....	24
(5) 「なごむ」：屋上スペース.....	25
(6) フロア全体：共有スペース.....	26
(7) 1階インフォメーションスペース.....	27
3-3. 施設レイアウト図.....	28
4. 企画・運営・施設管理.....	29
4-1. 企画・運営方針.....	29
(1) 基本的な考え方.....	29
(2) 各スペースの企画・運営の方向性.....	31
(3) 開館準備.....	38
4-2. 施設管理方針.....	39
(1) 基本的な考え方.....	39
(2) 利用ルール.....	39
4-3. 運営体制方針.....	41
(1) 基本的な考え方.....	41
(2) 事業方式・運営形式.....	42

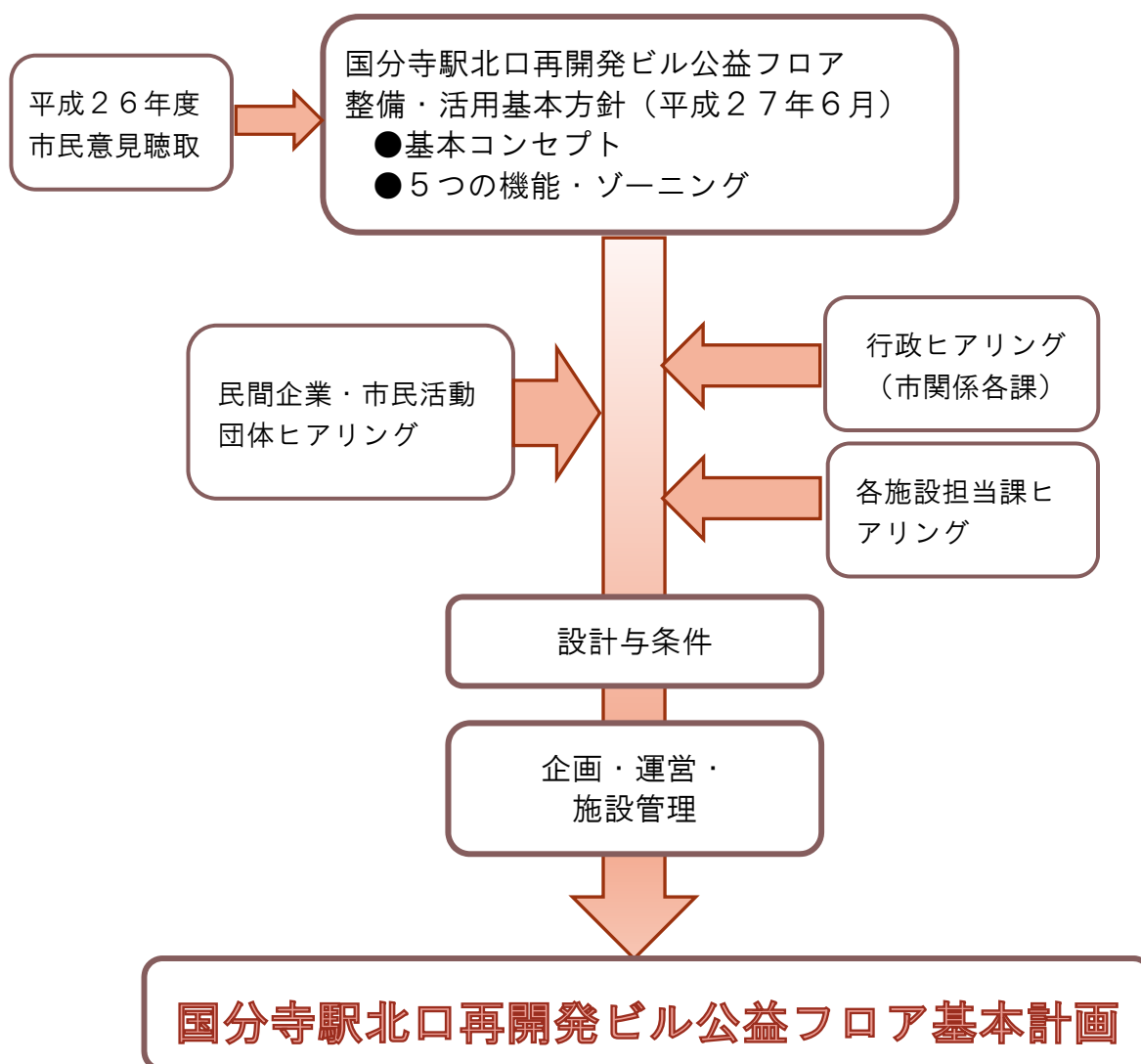
(3) 運営体制	42
4-4. 広報方針	43
(1) 基本的な考え方	43
(2) 広報の手法	43
4-5. 収支方針	45
(1) 基本的な考え方	45
(2) 収支項目	45
(3) 目標モデル	46
4-6. 今後のスケジュール	47

1. 基本計画の位置づけ

1-1. 計画策定の背景と目的

平成 27 年 6 月に策定した「国分寺駅北口再開発ビル公益施設等整備・活用基本方針」（以下「活用基本方針」といいます。）をふまえ、5 階の市が所有するフロア，屋上スペース及び 1 階インフォメーションスペース（以下「公益フロア」といいます。）の具体的かつ詳細な整備を進めていくため，平成 27 年度も引き続き庁内検討組織として関係課の職員等で構成される国分寺駅北口再開発ビル公益施設等検討委員会にて検討し，公益フロアの有する各機能の具体的な事業の方向性，施設の管理方法についての考え方を検討してきました。

各分野に携わる市関係各課等，ノウハウを有する民間企業へのヒアリング，公益フロアの利用・活動者でもあるとして想定される市民活動団体へのヒアリングと，市民ワークショップの意見や他都市事例をふまえ，公益フロア整備に向けた設計と条件の整理および，企画・運営・施設管理についての基本的な指針を「国分寺駅北口再開発ビル公益フロア基本計画」としてまとめました。



1-2. 公益フロアの基本コンセプト

活用基本方針では、公益フロアの基本理念・基本方針・施設の5つの機能を次の通り示しています。

(1) 基本理念・基本方針

公益フロアは既存の3つの公共施設が持つ機能（ホール機能，行政サービス機能，図書機能）を持った施設としてだけでなく，基本理念に示す「魅力を発掘し，発信するまちのぶんかターミナル」として整備します。国分寺市の歴史や自然などの資源を見直し，暮らしをより豊かに楽しむこと（＝国分寺市のぶんか）を目指します。そのためにも，市民及び事業者など（以下「市民等」といいます。）が主体的に活動し，施設を活用していくことができる拠点となり，市内で活動する市民や市民活動団体が学びを通じてネットワークを築くことでまちの魅力を広く発信し，今後まちを担う若い世代が地域とつながり，暮らしを豊かにする拠点となることが期待されます。

【基本理念】

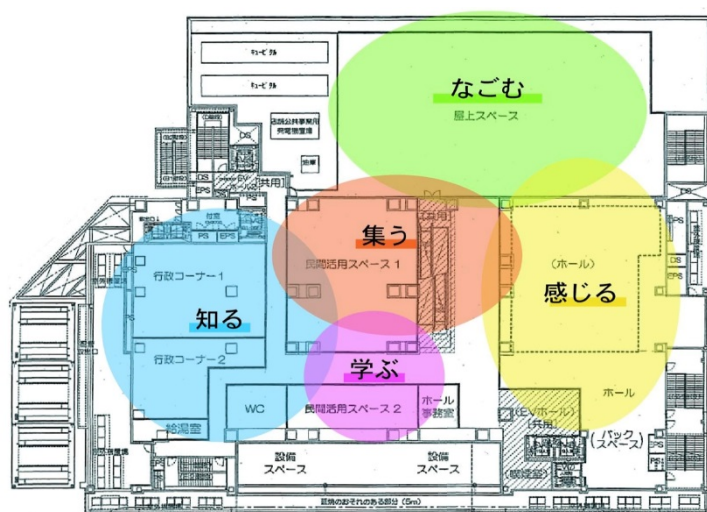
魅力を発掘・発信する まちのぶんかターミナル

基本方針	
国分寺市の魅力を発掘し，学びを通して発信する拠点	国分寺市には，武蔵国分寺建立の歴史，全国名水百選に認定された湧水，日本の宇宙開発発祥，新幹線開発など，魅力がたくさんあります。民間の活力を活用し，まちの魅力を市民自らが発掘し，学びながら，市内外に発信する機能を有することで，国分寺市の新しいぶんかを醸成する場とします
市民が主体的に活動し，新たな魅力を生み出す拠点	国分寺市のまちの魅力を充実させ，発展させるためには，市内外で活動する人・物・情報が集まり，交流し，広がることで，暮らしのイノベーションを継続的に起こしていく必要があります。まちや暮らしをより良くしたいと考えている人たちが主体的に活動でき，新たな魅力を生み出す開かれた拠点とします。
市内の魅力ある場所，人，活動とつながる結節点	国分寺市には，魅力的な場所，個人や団体によるまちや暮らしを楽しむ活動が数多くあります。これらの情報を公益フロアに集め，ここに来た人たちがそれらを知ること，まちとつながりを持ち，それぞれの地域での活動につなげていくことで，国分寺市全体が暮らしやすいまちになっていくことを目指します。
まちを担う若い世代が地域とつながり暮らしを豊かにする拠点	国分寺市をより住みやすい場にするためには，これからの国分寺市を担う若い世代が，他世代と交流をしながら，活動しやすい状況を整える必要があります。このような視点から，子育て情報の発信や，子供連れでも参加しやすいイベントなどを実施し，子育て世代や若い世代が利用したくなる施設とします。

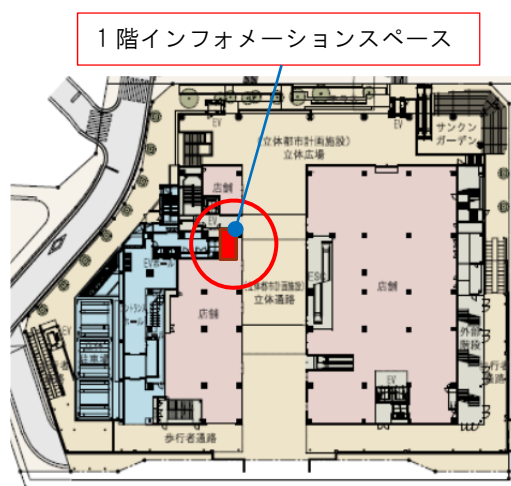
(2) 求められる5つの機能と整備方針

活用基本方針では3つの既存施設機能とこれまでの検討から、5つの機能を持つこととし、施設空間のゾーニングを検討しました。複数の機能とそのスペースを有する施設となることから、本計画では5階フロアの共用スペースと1階インフォメーションスペースを含めた7つのスペースでの企画・運営の方向性を検討します。

機能	整備方針	空間のゾーニング	スペース
集う	気軽に集い、交流が生まれるまちのカフェ	民間活用スペース1	1. カフェスペース
感じる	文化的なイベントで感性を育むホール	ホールスペース	2. ホールスペース
知る	まちの魅力を知るライブラリーと暮らしの相談窓口	行政コーナー 魅力発信コーナー	3-1. 市民課スペース 3-2. 図書スペース 3-3. 魅力発信スペース
学ぶ	近隣の大学と市民がともに学ぶ、まちなかキャンパス	民間活用スペース2	4. 学びの交流スペース
なごむ	多世代が自由に過ごせる緑ある屋外空間	屋上スペース	5. 屋上スペース
共用スペース	一体的に連動した企画、機能間の連携を生み出すスペース	総合案内窓口その他スペース	6. 共用スペース
情報発信	5階公益フロアへの誘導も図れる場	1階	7. 1階インフォメーションスペース



再開発ビル西街区5階
(5つの機能のゾーニングイメージ図)



再開発ビル西街区1階
(1階インフォメーションスペース)

2. 基本計画の前提条件

2-1. これまでの検討経緯

活用基本方針でまとめた市民意見等を踏まえ、設計と条件の整理および管理運営の方向性を検討することとし、以下に活用基本方針より前提条件を整理しました。

(1) 市民意見の概要

市民の意見が可能な限り反映された基本方針とするため、市民ワークショップ等、市民アンケート（施設配置）、市民アンケート（無作為抽出）の3つの市民参加を行いました。市民意見等を踏まえ、検討委員会として重視すべき課題及びまちの魅力を整理しました。

□重視するポイント

- 若い世代の国分寺市の流入人口増加を図るため、公益フロアのターゲットを若い世代・子育て世代とする。
- 訪れた人が国分寺市を魅力あるまちだと認識してくれるようにするため、公益フロアを「まちの魅力発信の拠点」とする。

□市民意見等を踏まえた「まちの魅力」とは

- ・歴史と文化、史跡
- ・独自で自由な文化
- ・農や自然がある暮らし
- ・全国名水百選の湧水
- ・新幹線、日本宇宙開発発祥の地
- ・研究所や大学がある
- ・地域の活動が活発
- ・30～40代世代の増加
- ・子育てがしやすい
- ・駅の乗降客数が多い

□市民意見の概要

	市民ワークショップ等 (意見概要)	市民アンケート (施設配置：順位順，そ の他除く)	市民アンケート (無作為抽出：順位 順，その他除く)
ホールの 使い方	① 厨房設備 ② 遮音・舞台・照明設備が 必要 ③ 大きな映像画面が必要 ④ 多目的に使えるよう制約 は最小限にする	① 映画鑑賞・パブリック ビューイング ② 音楽・ダンス ③ 展示会 ④ フリーマーケット ⑤ 立食パーティ等	① 映画鑑賞・パブリッ クビューイング ② 音楽・ダンス ③ 展示会 ④ フリーマーケット ⑤ 立食パーティ等
図書施設 について	① カフェが併設した図書ス ペース ② 電子図書，Wi-Fi スポッ ト等を整備し，ICT 環境 を充実させる ③ ガイドブック，観光情 報，・市政情報等の国分 寺の魅力に触れられるよ うにする ④ 子ども図書，読み聞かせ スペース等 ⑤ 開館時間を長く	① カフェ ② 電子書籍 ③ 子ども向け・漫画 ④ レファレンス	① カフェ ② 電子書籍 ③ 子ども向け ④ レファレンス ⑤ 漫画
行政機能 に付加し たい機能	① 市民相談，行政相談等 ② 全般的な申請，申告等 ③ 子育て相談，子育て支援 等 ④ 小平市，府中市の出張所	① 市民相談 ② 観光情報提供・国分寺 の歴史学び ③ 子育て情報提供・市民 活動情報提供 ④ 就労支援	① 市民相談 ② 就労支援 ③ 子育て情報提供 ④ 市民活動情報提供 ⑤ 観光情報提供 ⑥ 国分寺の歴史学び
民間活用 施設等に 求める機 能	① カフェ機能 ② まちの魅力発信機能 ③ 起業・創業支援機能 ④ 子どもが遊べるスペー ス・子育て支援機能 ⑤ 学び・学生の機能	① カフェ ② 教養講座 ③ 国分寺の魅力発信 ④ 子どもの一時預かり ⑤ フィットネス	① カフェ ② 教養講座・フィット ネス ③ 国分寺の魅力発信 ④ 子どもの一時預かり
屋上の使 い方	① 屋上庭園・イベント，ス ポーツスペース ② 子どもが遊べる場		① 庭園 ② 遊び場 ③ イベントスペース ④ 農園
その他	① 国分寺の魅力発信 ② 市役所のイメージがせ ず，一体的な利用ができ るように		

整理した市民意見，重視するポイント，まちの魅力から，公益フロアの整備・活用にあたりニーズを整理しました。

【ニーズ】

- ◆いつ訪れても楽しめるイベント
- ◆映画鑑賞が気軽にできる場
- ◆暮らしの相談窓口
- ◆市民がまちの魅力を知る場
- ◆気軽にあつまる場
- ◆まちの魅力を生かす場
- ◆大学との連携
- ◆学びの場
- ◆子どもと楽しめる場
- ◆自由度の高い屋外空間

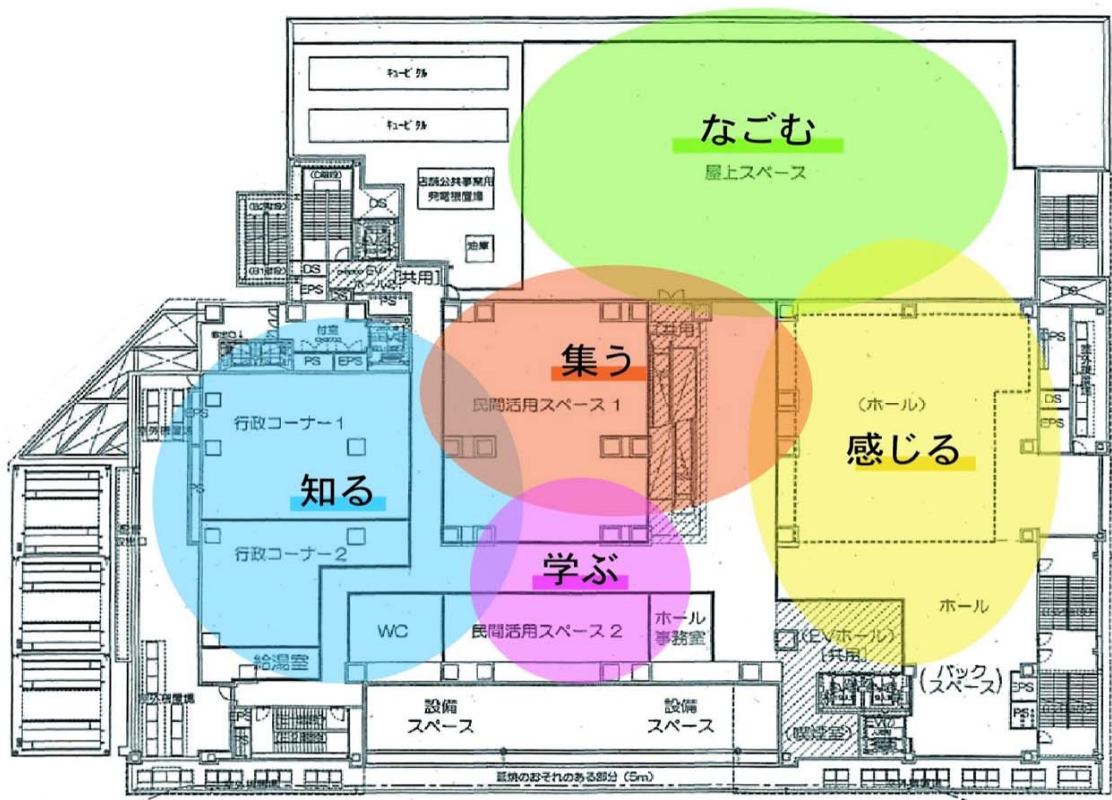
(2) 公益フロアに求められる施設・機能

市民意見等，基本理念・基本方針を踏まえ，公益フロアに求められる機能，整備方針，活用方法・整備イメージを整理しました。

1. 人が集い，つながり，活動を生み出す-----集う
2. 文化的なイベントを通じて感性を育む-----感じる
3. 国分寺市の歴史や文化を知り，発信する-----知る
4. 大学と連携して学びを深め，楽しむ-----学ぶ
5. 開放感があり，多世代が自由に過ごせる-----なごむ



5つの機能	整備方針	活用方法・整備イメージ
	<p>【気軽に集い，交流が生まれるまちのカフェ】 国分寺市に住む人，働く人，遊びに来た人をはじめ，様々な人が集まり，交流するためのスペースです。交流を促すためのイベントを開催したり，ここから新しいつながりを増やします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べながら，飲みながら気軽に交流できる ・ フレキシブルな椅子とテーブルで自由度の高い空間 ・ 明るくオープンなまちの「ちゃのま」
	<p>【文化的なイベントで感性を育むホール】 講演会や，シンポジウムなど文化的なイベントをはじめ，パブリックビューイングなど，市民の感性を刺激して，共有することで感性を育み，ぶんかを育てるための空間です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 閉鎖的ではなく，開かれた空間 ・ 子育て世代も安心して楽しめる場 ・ 多様な人々が利用できる「ひろま」
	<p>【まちの魅力を知るライブラリーと暮らしの相談窓口】 国分寺市の魅力と，暮らしを豊かにする情報を「知る」ことができる機能として，常に新しい情報が入る変化していくライブラリー。リクエストした資料の受取・返却機能も備えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかの拠点（史跡や名所）と連携した展示 ・ 暮らしの相談窓口（コンシェルジュ）機能 ・ 魅力発信を中心とした「しよさい」
	<p>【近隣の大学と市民がともに学ぶ，まちなかキャンパス】 国分寺市の魅力を「学び」の視点から発掘・発信するまちなかキャンパスとして，近隣の大学，研究所や市民活動団体等と連携し様々な分野の学びを提供します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学と連携した学びの空間 ・ 研究発表や学生イベントの展示場所 ・ 様々な講座に使える「てらこや」
	<p>【多世代が自由に過ごせる緑ある屋外空間】 屋外を活用した開放感のある場所で，様々な年齢層の人がくつろぎ，なごむことのできる空間です。子どもが遊んだり，大人がのんびりと空を眺めたりできるみんなの庭のようなイメージです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い年齢層の人が一息つける ・ ゆったりとした時間が流れる広々とした「はらっぱ」のような印象



再開発ビル西街区 5階 (5つの機能のゾーニングイメージ図)

2-2. ヒアリングにおける課題の抽出および各施設の役割整理

(1) ヒアリングの位置づけ

公益フロアは、基本方針のコンセプト等を踏まえるとともに、一つの要素として行政課題の解決をもたせることを想定しています。そこで、基本コンセプトである「国分寺の魅力を発掘・発信するまちのぶんかターミナル」から、公益フロア運営における連携の可能性、国分寺の魅力発信、まちの活動支援及びまちづくりに関する7課に個別ヒアリングを実施しました。

また、事業の実現化、民間による公益フロアの一体的な管理運営を目指した計画を検討するにあたり、民間事業者にヒアリング調査を行うことは重要です。そこで、民間スペースについては、地域に根ざす民間企業や市民活動団体にヒアリングを行ったうえ、他の各施設と連携し一体的な公益フロアとなるよう目標イメージを設定し、民間活用にあたっての条件を整理しました。

(2) ヒアリングの実施

1) 行政ヒアリングの結果

行政ヒアリングの結果を下記の通り整理しました。

機能	行政課題・期待すること	各施設の役割	運営に係る意見	想定される設備
「集う」 (民間活用スペース1)	<ul style="list-style-type: none"> ◇公共施設利用者は高齢者が多く、学生～40代の利用が少ない ◇活動の担い手づくりと、市民だけで継続させるしくみ、支援づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◇民間によるカフェ+物販スペースの運営 ◇公益フロアに人が滞留し、交流を生み出す拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業としてイベントも実施 ・子どもがいても使いやすい空間 	<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺の魅力発信につながる物販+カフェスペース(テイクアウトも可能)
「感じる」 (ホール)	<ul style="list-style-type: none"> ◇若い世代のまちづくりや、地域での活動が少ない、または市との関係性が薄い ◇イベント的に物販も可能なスペース(農産物のマルシェなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇様々な利用ができる多目的ホール ◇活動の練習の場ではなく、発表の場 	<ul style="list-style-type: none"> ・主催事業の実施 ・利用がないときは多目的に使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動式の机、椅子、パーティション ・施設全体の総合受付(ホール受付と兼ねる) ・映写設備(天井、壁面、床など)
「知る」 (行政コーナー)	<ul style="list-style-type: none"> ◇国分寺市の様々な情報発信がうまくできていない ◇市民と国分寺の魅力(農や文化)との接点が少ない ◇市民の愛着、誇りを生み出すまち 	<ul style="list-style-type: none"> ◇魅力発信の視点から選書した、変化のある図書機能 ◇一体感のある行政コーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力発信に特化した図書のセレクト、貸出し ・一体感のある内装、空間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやメディアの取り扱い

「学ぶ」 (民間活用スペース 2)	<ul style="list-style-type: none"> ◇新たな市民活動団体とのネットワークが少ない ◇社会教育との連携、出張講座 ◇近隣大学や研究所との連携事業 ◇国分寺の魅力発信での市との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ◇大学による多様な学びを創発するフューチャーセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所や大学との連携事業の実施 ・社会教育との連携 ・大学が使わないときも、運営者が活用できる仕組み 	
「なごむ」 (屋上スペース)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ふらっと立ち寄りたくなる空間 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ほっと一息できる自由度の高い屋外スペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や設備が充実しているのではなく、プレーンで多様な使い方ができる 	

2) 民間ヒアリングの結果

民間ヒアリングでは、下記の項目についてヒアリングを行い、機能ごとに整理しました。

<ul style="list-style-type: none"> ● 本事業の趣旨説明 ● 普段の事業や今後の展開，市行政やまちとの関わり，実施しているイベントや活動など基礎情報 ● 本事業に関する率直な感想（事業者として，利用者として） ● 本事業への関わり方のアイデア（事業としての実現性や可能性，自分や関係者で関わることがあるか，など） ● （事業者の場合）本事業の運営を行うと想定した場合の疑問点や，気になるところ ● 事業者の場合，本事業の運営を行ううえでのコスト（賃料を払うならどれくらいか，委託できないとできないか，など） ● （連携・協力者の場合）どういった運営計画（しくみ）だと活用しやすいか ● 国分寺の玄関口としてフロア全体へ期待すること，あったらいいと思う機能や事業

5つの機能	事業アイデア	運営に係る意見	想定される設備
「集う」 (民間活用スペース 1)	<ul style="list-style-type: none"> ◇国分寺産の農産物を中心とした製品を使ったカフェ・レストランとし，国分寺の魅力を発信する ◇マルシェやワゴン形式で産直野菜や加工品などの販売も行う ◇「知る」の図書機能と連携して，ブックカフェのような管理運営も視野に入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ◇フルサービス空間とセルフサービス空間を設ける ◇フルサービス空間は 100㎡程度，セルフサービス空間は 70㎡程度だとコストがかからず運営が可能であると思われる ◇リスクを想定し，民間が借りて管理するのが望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の料理がだせる厨房設備
「感じる」 (ホール)	<ul style="list-style-type: none"> ◇若い世代や市民活動団体等の活動の舞台として活用し，市民の企画をPRし，応援するホール ◇市民向けのイベントなどを企画・運営し，国分寺の魅力を発信及び賑わいづくりの場 	<ul style="list-style-type: none"> ◇定期的な自主企画を設け，対外的に常時情報を発信していく ◇セミナーやイベント開催時に，物販や飲食可能とする ◇遮音・防音を踏まえ，楽器の使用範囲を検討 ◇イベント時，子どもが遊 	<ul style="list-style-type: none"> ・パントリーの設置 ・小規模の活動利用を想定した可動式間仕切り ・外にも中の活動の様子が伝わるよう，壁にガラスや窓を設置 ・映像設備一式（スクリーン，プロジェク

		べるスペース（キッズスペース）などを設ける	ターなど），音響設備一式 ・様々な場面での利用が可能な移動ステージの導入
「知る」 （行政コーナー）	<ul style="list-style-type: none"> ◇これからの図書館は「貸借」でもなく、「滞在」でもなく「発信型」 ◇行政と市民が融合して協働で事業を行うことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◇本を媒介にした暮らし方，生き方を提案するプログラムの展開 ◇本棚の選書や蔵書づくり，市民の本の預かり 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターや可動式の本棚，移動式椅子 ・国分寺市のマップを展示
「学ぶ」 （民間活用スペース2）	<ul style="list-style-type: none"> ◇大学のサテライトキャンパスとして占有するが，市民講座や大学の出張授業などを開催して地域貢献を図る ◇大学で使用しない時間は利用希望団体へ有料貸し出しをする 	<ul style="list-style-type: none"> ◇大学の情報を紹介するパンフレットや掲示物をおく ◇「集う」など多機能な場所との連携を図る ◇フロア全体を管理・運営する事業者がいれば，管理業務で連携可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖的使用も可能なような可動式間仕切りの設置
「なごむ」 （屋上スペース）	<ul style="list-style-type: none"> ◇屋上スペースを，市民やマンション住民に向けた憩いの空間，交流空間とする 	<ul style="list-style-type: none"> ◇市民やマンション住民にむけた植物を活用したワークショップやイベントの開催 ◇大部分を芝生などで多目的に使える空間とし，実のなる木を植えて，食育も兼ねたイベントの開催 ◇植栽管理を，市民やマンション住民とともに維持管理するコミュニティガーデン ◇「知る」の図書機能と連携し，屋外での読み聞かせや紙芝居などの企画 ◇移動式の椅子の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・物置，水道，電源，テラス部分の屋根（可動式）
公益フロア全体	<ul style="list-style-type: none"> ◇各機能や連携団体をつなぐコーディネーターを配置し，公共スペース・民間活用スペースを一体的に管理・運営し，連動した企画・賑わいを生み出すためのしくみを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ◇フロア全体が同じ営業時間が望ましい ◇一体運営とすることで，ホール利用を事業者が優先して借りることができ，年間のイベントを作り，フロアの位置付け，テーマ設定をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代を視野に入れた，多目的トイレ及び授乳室の設置 ・フロア全体の統一性（壁，床，サインなど）
1階インフォメーション	<ul style="list-style-type: none"> ◇5階に行かなくても情報を収集でき，いきたくなるようなPR場所 	<ul style="list-style-type: none"> ◇フリーペーパーライブラリーのような，人が集い地域の情報拠点になる，コミュニティ活動を助けるための場 	<ul style="list-style-type: none"> ・上映プログラムの紹介ができるポスタースペース

2-3. 前提条件の整理

公益フロアの設計と条件を整理するにあたり、各施設担当課のヒアリング及びホール、1階インフォメーション、市民意見等について検討し、整理しました。

(1) 担当課の意見整理

1) 「知る」(行政コーナー：市民課サービスコーナー)

空間的な条件	運営についての条件・課題など
<p>【執務室】約 60 ㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペースの広さは現行水準のサービスが前提 ・動線、防犯、個人情報保護・情報セキュリティへの配慮が必要 ・窓口サービス(各種証明書の発行や母子手帳等の配布など)にあわせた端末や機械の設置。 ・窓口はカウンターを隔てて通り抜けができないようにし、閉館時はシャッターなどで施錠する ・休憩室、ごみ指定収集袋等在庫置き場、ロッカーを含む <p>【お客様スペース】約 40 ㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦や車いすの人でも問題ない記載台、動線の確保 	<p>【スタッフ数 7人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行業務においては7人 <p>【民間委託について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報や業務内容から市民課の業務に関しては市民課職員による運営が原則となる ・清掃や維持管理は民間への委託は可能 <p>【窓口サービスについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所全般のワンストップサービスの提供や市民相談、行政相談、子育て相談・子育て支援、就労支援等の新たなサービスの提供を行うときは、スペースや構造、機構改革や人員体制の整備等が必要である ・来訪者に対して、どの課に行けばよいのかなどの案内は行っているが、現行の人員体制ではそれ以上の対応は難しい

2) 「知る」(行政コーナー：図書コーナー)

空間的な条件	運営についての条件・課題など
<p>【窓口+予約資料棚スペース】約 20 ㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動貸出し器、レシートプリンタ(各2台)、自動返却・利用者用端末(タッチパネル)、バンダー付きコピー機1台、ブックポスト、予約受取待ち本棚またはブックラック(約1000冊程度を想定) <p>【執務室】約 18 ㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机2台、職員用椅子、ファクス、複写機。 ・荷捌きや書類整理があるため、窓口からは見えないようパーテーションなどで区切る。 ・施錠可能とする <p>【閲覧ゾーン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信スペースとして利用するのであれば、展示にあわせた企画型本棚を期間限定で設置、市民課スペースなどを行っても良い。予約受け取りだけであれば窓口のスペースがあればよい。必要に応じて、文化財情報や観光情報、災害時の発信情報などの提供、Wi-Fiや電源設備+持ち込みパソコン用機の設置 ・閲覧用机4台程度(椅子も4台) ・雑誌をカフェで読めるように、無断持ち出し対策としてブックディテクション[※]が必要 	<p>【スタッフ数 1~3人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予約受取と返却だけに限ると常時一人または2名のシフト制 ・H29年度からの図書館(4館)業務委託にあわせて、専門性の高い職員を就任させることも可能(機能を整理して検討) <p>【民間委託について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間会社への委託は問題ない。個人情報の取り扱いのみ注意が必要 <p>【図書館法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では法に基づかない図書館はこれまで有していない(条例の新たな制定が必要) ・教育委員会と市長部局との一定の整理が必要 <p>【一時貸出サービスについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ機能が民間活用スペースに入る場合、読書の機会を増やすために雑誌等を一時貸出しするのも良いかもしれない。その場合は手続きが必要となる <p>【閲覧ゾーンについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を情報の発掘・発信の媒体として活用する。 ・常設的な本に加えて、企画や発信テーマに沿った資料もセレクトして開架。その他図書

	<p>館から企画に沿って書籍を借りて展示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のLホール横の文化財展示については、具体的な展示内容・展示方法など全フロアーレベルで検討が必要
--	--

※ブックディテクション：貸出処理をしていない図書を持ったまま出入口に設置されたゲートを通ると警告音が鳴るシステムである。

3) 「感じる」(ホールスペース)

空間的な条件	運営についての条件・課題など
<p>【ホールについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防音・遮音性能，間仕切，大型スクリーン，舞台設備（移動式），調理スペース（バックスペースを活用），倉庫（バックスペースを活用），耐久性のある床 ・これまでLホールを利用していた団体はもちろん使えるが，より「国分寺の魅力（団体の活動）を発信する」ことができる空間とする ・民間活用スペース及び屋上スペースの2面もしくはいずれかの面をガラス張りにするなどの検討 ・展示スペースとしては壁が必要であり，また音楽の分野については防音・遮音性能の観点から，ガラス+可動式の壁などをいれるなどを検討 	<p>【公益フロアの管理について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益フロア全体の機能が多岐にわたるため，指定管理制度のほか，全体管理について検討する必要がある <p>【マンション住民への理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールがあり，また屋外空間が自由に出入りできる空間になると子どもの声やイベントの音が昼夜でることが想定される。もちろん防音・遮音性能の検証は必要だが，マンション住民の理解も必要である。重要説明事項でどのように入れるか検討が必要 ・屋上スペースでマンション住民も参加できる盆踊りなどを開催できると理想的 ・屋上スペースを併せて管理，活用することで，これまでの課題解消につながるものがないか団体等の意見を聞く

4) 国分寺の魅力発信について

空間的な条件	運営についての条件・課題など
<p>【公益フロア全体での発信方法など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益フロア全体で，魅力の発掘・発信ができるとよい ・オープンな環境でワークショップ等を開催することで多くの市民等の関心を引き，参加者を増やし，魅力の発信につなげる ・展示など受動的なものだけではなく，ワークショップなど議論できるスペースも必要である。（行政コーナーに限らずホール及びフロア全般で） ・「感じる」「学ぶ」エリアを含めた空間全体での発信方法の検討とともに，フロアには国分寺市のマップを設置してはどうか。大きめのマップがあることで，様々な活用方法が期待される（光図書館のJAXAの衛星地図） <p>【販売・イベントスペースの設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画型で国分寺市の魅力を発信する分野として，例えば都市農業の紹介など同時に地場産野菜の販売などが想定される。そのため，販売ができる空間や什器を検討 	<p>【民間事業者との連携による推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設的なものより，企画型での発信が中心と想定されるため，市政戦略室と，民間事業者が連携して推進していけるとよい ・年間の企画テーマを設定し，その展示方法や詳細は民間事業者から提案したり，市が資料を提供したり，連携ができるとよい <p>【他市との連携について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接自治体の観光情報などの紹介は，状況に応じて検討すべき （その他） <p>【災害時の帰宅困難者の受け入れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災時は，帰宅困難者が多数発生し，公共施設だけでなく，民間施設も含めた大型施設での受け入れが課題であった。本施設も駅直結の大型施設として災害時の帰宅困難者の受け入れや災害情報の把握などについては，ビル全体で検討すべき

(2) ホールスペース・1階インフォメーションスペースの検討

1) 「感じる」(ホールスペース)についての検討

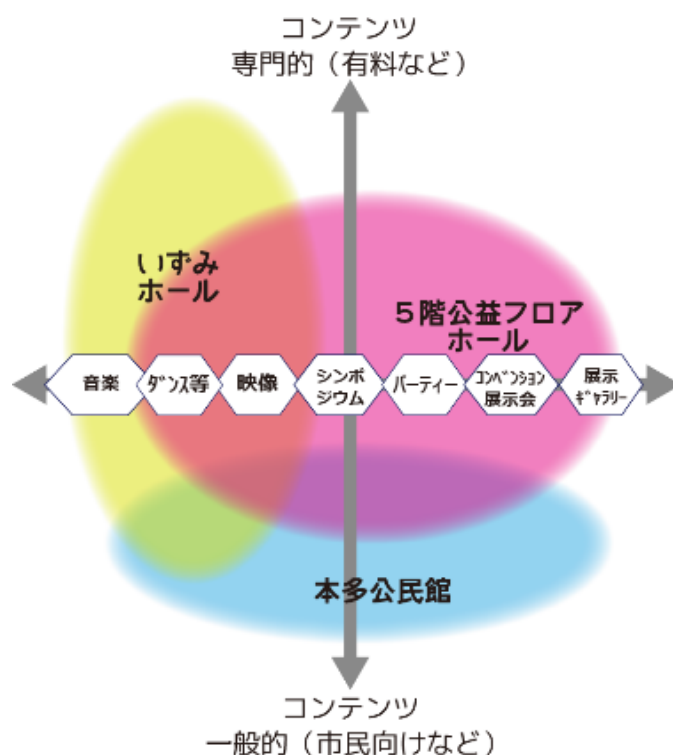
①ホールスペースの位置づけの整理

市の方針及び民間企業・市民活動団体ヒアリングより、ホールスペースの位置づけは下表のように考えられます。

対象	目的	主な設備
市民 ・一般利用者 ・活動団体 来訪者 ・観光客	想定される利用目的 ・活動団体の発表の場(演劇, コンサート, 社交ダンス, 展示会等) ・講演会, シンポジウム ・パーティー ・セミナー ・パブリックビューイング ・展示会 ・映画鑑賞会 ・親子イベントなど	可動式間仕切り(防音・遮音性能) 可動ステージ スタッキングチェア 会議用テーブル スクリーン・プロジェクター 演目看板 可動パネル(展示用備品) 展示に適した照明器具 利用者が操作できる照明, 音響, 映像, 空調等の設備 パントリー 楽屋(控え室) ※防音・遮音・振動については別途検討する

②市内のホールとの機能分担について

市内のホールと5階公益フロアホールの機能について、下図のように整理しました。



③ホールの形態

ホールの形態について、以下のように整理しました。

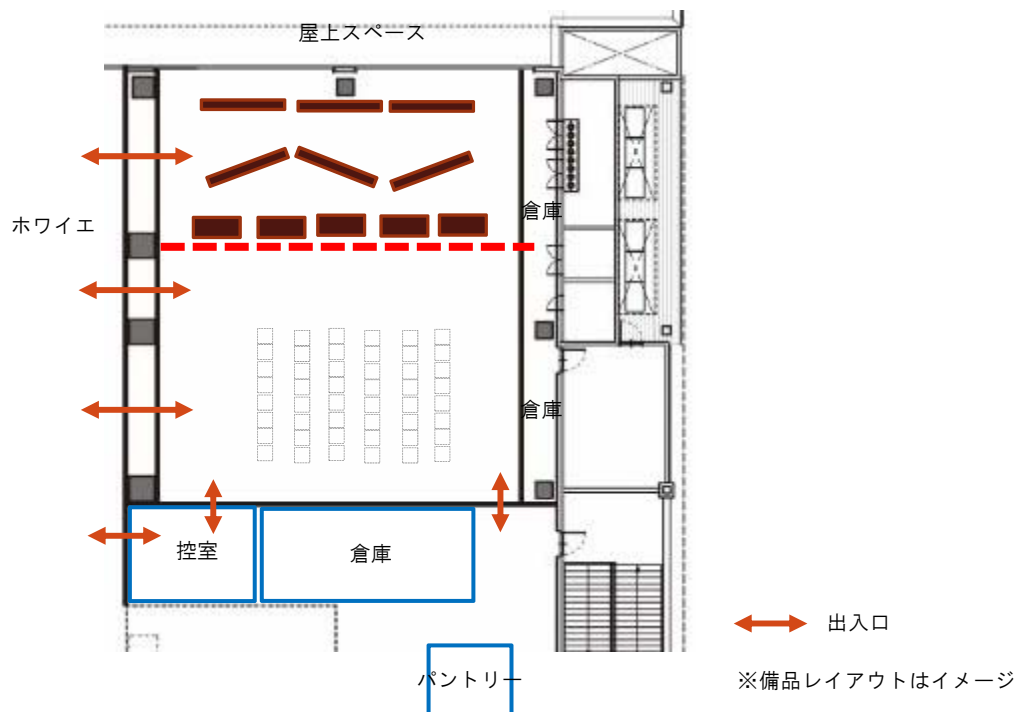
- ・ ホールスペース全体の面積は、ホール及び附帯施設（倉庫、控え室、パントリーなど）を含め約 520 m²とし、ホール内部に関しては約 300 m²前後を想定する。
- ・ 平土間とし、多様な使い方ができる多目的な空間とする。
- ・ 可動式間仕切りを設け、2部屋での利用も可能にする。
- ・ 設計段階において防音・遮音性能について検討をする必要がある。
- ・ 情報発信と交流を目指すために、屋上側は内外一体利用を視野に入れ、屋内側はホール・ホワイエ間の壁に窓やモニター等を設ける等の配慮をします。

※ホワイエ：劇場やホールなどの施設で、出入り口とホール客席部分の間にある広間。開演前や休憩時間の歓談や休憩などに用いる。飲食スペースとつながることが多い。

④可動式間仕切りの配置

可動式間仕切りの位置を、想定される利用目的を踏まえ、以下のような配置とします。

- ・ 可動式間仕切りの設置位置は、倉庫やパントリーとの導線等を踏まえ、南側を大部屋、北側を小部屋になるように配置する。
- ・ 間仕切りにより部屋を分割することで、小部屋部分を長期間ギャラリーとしての利用も可能とする。
- ・ 間仕切りについては、隣の音が聞こえないような防音・遮音性能を求める。



⑤舞台の形態

舞台については、固定とせず、組み合わせることにより様々な場面での活用が可能なように可動式とします。

- ・ 可動式の舞台とし、Lホールの舞台よりも大きいものとする。
(Lホールの舞台：長さ 572 cm 幅 270cm 高さ 30cm)
- ・ 簡易ステージ9台（移動式），ステージ用階段2台。
- ・ ステージ1台（横 240 cm×幅 120 cm×高 60 cm），ステージ9台で最大（横 720 cm×幅 360 cm×高 60 cm）となる。
- ・ ステージを組み合わせることにより，利用形態に応じた多目的な活用ができる。
- ・ 常設としないことで，ホール面積を自由に活用できる。

⑥座席の形態

多目的利用とするため，座席は固定とせず，スタッキングチェアなどを活用します。

- ・ 最大収容人数 300 人，座席数はシアター形式で 260 席程度，スクール形式で 150 席程度，テーブル着席簡易パーティ 100 名程度（同規模の他事例を参考とする）。

⑦防音・遮音

防音・遮音に関しては，周辺の条件を踏まえ，ホールでの利用条件（音や振動を発生するもの）を整理した上で，設計段階で専門家を交え検討する必要があります。

- ・ 室内騒音の設計目標は NC-25～30 程度※（舞台劇場，大会議室，公会堂，音楽教室程度）とする。
- ・ 二重壁にするなど，浮き床，壁，天井を含め，遮音・防音性に配慮する。

※NC 値：交通騒音など，窓や壁を透過してくる外部からの騒音や，空調機やエレベーター等，内部の設備騒音を「室内騒音」といい，この「室内騒音」を表す値をいう。

⑧必要な設備

- ・ 個展や展示場として活用できるよう，可動式の展示用パネルを備える。
- ・ 展示に適した照明器具を設置，また展示に必要な備品等を準備する。
- ・ 映写スクリーンは，全面を使った場合の常設スクリーンを1台，2部屋で利用できるよう自立型2台を想定する。常設スクリーンの取り付け位置については，設計段階で検討する。
- ・ プロジェクターは，全面使用時のスクリーンの設置に合わせて1台を常設とし，2部屋で使用可能なように2台移動型を想定する。
- ・ スタッキングチェア（300 程度），会議用テーブル（W1800×D900×H700：50 程度）
- ・ 演目看板，宴会時に使うテーブルクロス・椅子クロス，紅白幕。
- ・ 音響，照明，空調設備（利用者が操作可能なもの）。

⑨その他, 必要諸室など

【倉庫】約 80 m² (分散設置)

- ・ 可動式舞台, 椅子 (300 程度), 会議用テーブル (3 人用 50 程度), 展示パネルなどを収納。

【控え室】: 約 20 m²

- ・ ホールに隣接して設け, 子ども連れ親子などの観覧席にも兼用とする。
- ・ たたみ敷き 10 畳程度とし, 座卓や, 子どもの遊具などの収納を適宜設ける。
- ・ ホール内部を窺える窓 (ブラインド含む) 及びホールと行き来できる扉を設け, 控え室内部にてホール内部の音も流すことができる仕組みとする。

【パントリー】約 15 m²

- ・ ホールでの飲食対応の際に対応できる簡易な調理・キッチン機能を設ける (シンク, 湯沸し, 冷蔵庫, 電子レンジなど)。

2) 1階インフォメーションスペースの活用について

西街区1階の一面を「インフォメーションスペース」として市が活用することについて特定建築者（床所有者）から提案があり、平成28年4月に活用することとしました。

①想定条件・状況

【場 所】西街区1階 立体通路に面した部分
 【面 積】19.27㎡

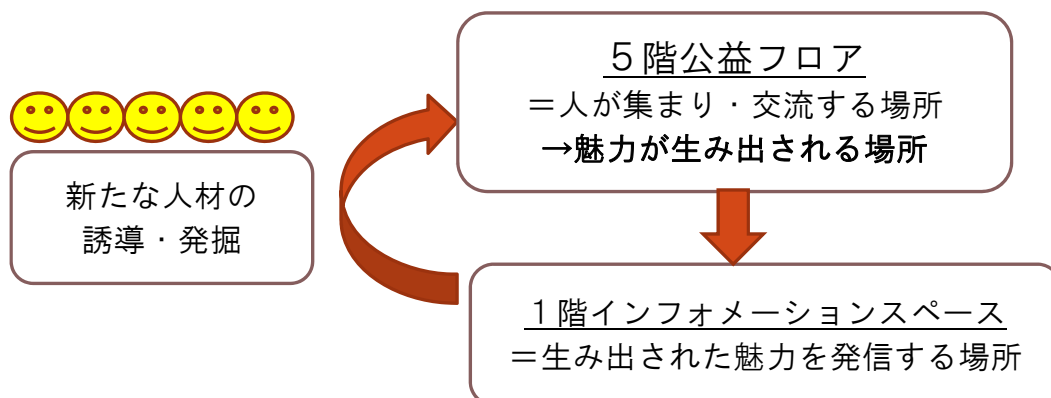
②1階インフォメーションスペースの方向性

- ・1階のインフォメーションスペースは、再開発ビルを訪れた不特定多数の住民に対し、5階公益フロアが存在やそこから発信される情報を周知するとともに、5階公益フロアへの誘導を積極的に行うことで、新たな活動の担い手を確保し、まちの魅力の創出につなげていくために重要な役割を果たす場所として位置づける。
- ・1階のインフォメーションスペースと5階公益フロアが同一事業者による管理体制のもとで運営されることで、上記役割を十分に果たすことができると考えられる。
- ・発信する情報種類は、上記内容を含めて5つに分類し、より具体的な活用方法について検討を進める。

③役割と想定される設備について

1階インフォメーションスペースのもつ役割と想定される設備を整理しました。

役割		想定される設備
5階公益フロアの情報発信・PR	国分寺市の魅力を創造・発信する人材を誘導するため 例：イベント案内	・デジタルサイネージ※ ・資料配架ラック ・ポスター掲示スペース
国分寺市の魅力紹介	不特定多数の方に国分寺市を知ってもらうため 例：デジタルサイネージ	
観光案内	観光客の満足度を高めるため 例：観光パンフレット配架	
道案内・商業施設案内		
災害時対応		



※デジタルサイネージ：屋外や店頭などに設置された液晶ディスプレイなどの映像表示装置。近くにいる人や通りすがりの人に案内情報や広告などを表示する装置で、看板やポスターなどを電子化したもの。

3)市民意見概要の整理

市民意見概要については、基本方針を踏まえた行政ヒアリング及び民間ヒアリングを受け、検討委員会において設計と条件に反映可能かどうかの整理をしました。

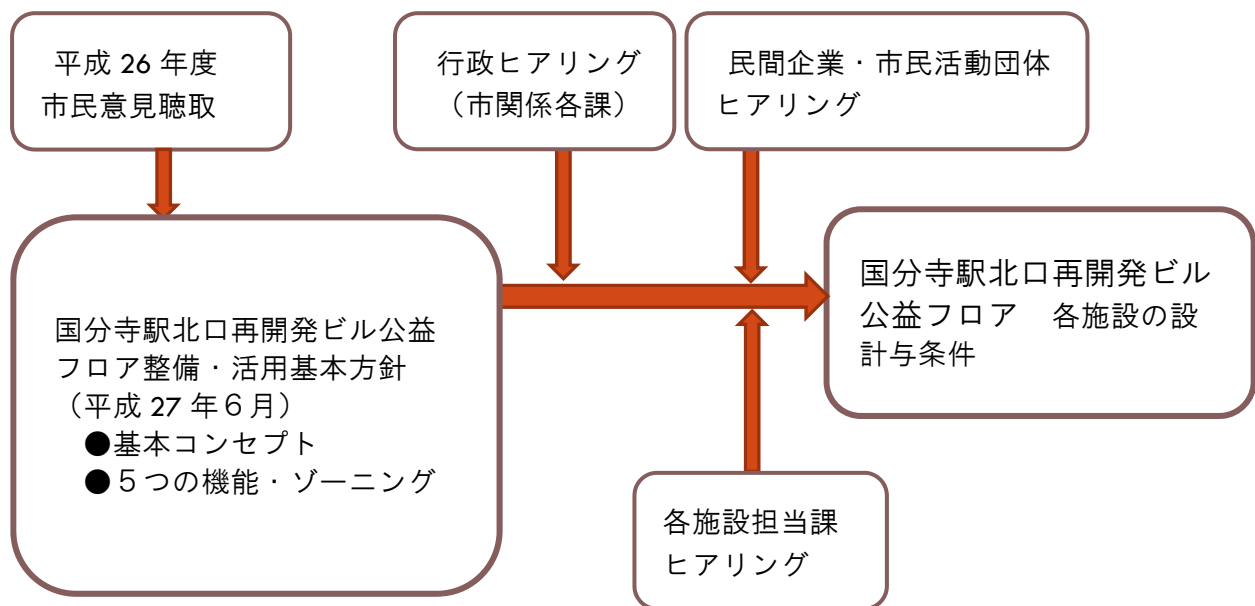
機能	反映可能なもの	運用等で反映可能なもの	今後検討が必要なもの	反映できる環境にないもの
「集う」 (民間活用スペース1)	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ機能 ・子どもが遊べるスペース ・子育て支援機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの魅力発信機能 		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの一時預かり
「感じる」 (ホール)	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房設備 ・大きな映像画面が必要 ・多目的に使えるよう制約は最小限にする ・鑑賞・パブリックビューイング ・音楽・社交ダンス ・展示会 ・立食パーティ等 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーマーケット 	<ul style="list-style-type: none"> ・遮音、舞台、照明設備は必要 	
「知る」 (行政コーナー1)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動情報提供 ・子育て情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ・全般的な申請、申告 ・近隣自治体の出張所 ・市民相談 ・行政相談 ・子育て相談、子育て支援等 ・就労支援 	
「知る」 (行政コーナー2)	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェが併設した図書スペース ・ガイドブック、観光情報・市政情報等の国分寺の魅力に触れられるようにする ・電子書籍 ・レファレンス ・観光情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども図書、読み聞かせスペース等 ・子ども向け ・国分寺の歴史学び 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子図書、Wi-Fiスポット等を整備し、ICT環境を充実させる ・開館時間を長く 	<ul style="list-style-type: none"> ・漫画
「学ぶ」 (民間活用スペース2)	<ul style="list-style-type: none"> ・学び・学生の機能 ・教養講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの魅力発信機能 ・国分寺の魅力発信 ・起業・創業支援機能 		<ul style="list-style-type: none"> ・フィットネス(常設) ・子どもの一時預かり
「なごむ」 (屋上スペース)	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上庭園 ・子どもが遊べる場 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・農園 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツスペース(テニス・サッカー等常設施設)
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・国分寺の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所のイメージがせず、一体的な利用 	

			ができるように	
--	--	--	---------	--

3. 設計と条件

3-1. 設計と条件検討の位置づけ

設計と条件の検討にあたっては、「国分寺駅北口再開発ビル公益フロア整備・活用基本方針」（以下、基本方針）で定めた①基本理念，②基本方針，③公益フロアに求められる施設・機能と，基本方針策定にあたり市民参加の場として行った市民ワークショップ等，市民アンケート（施設配置），市民アンケート（無作為抽出）における市民意見を基本としつつ，市関係課への行政ヒアリングにより明らかとなった行政課題の解決，民間企業・市民活動団体ヒアリングによる意見・アイデアを加味しました。



3-2. 各施設の設計と条件

行政ヒアリングおよび民間ヒアリング結果における役割の整理，さらに前提条件及び市民意見等の概要を踏まえ，公益フロアにおける個々の施設の考え方と設計条件を整理しました。

(1) 「集う」：民間活用スペース1（カフェスペース）

気軽に集い、交流が生まれるまちのカフェ

国分寺市に住む人、働く人、遊びに来た人をはじめ、様々な人が集まり、交流するためのスペースです。交流を促すためのイベントを開催したり、ここから新しいつながりを増やします。

- フロア利用者の客だまり，休憩，歓談，交流の場としてのカフェとします。
- 国分寺の魅力をも民間と連携しながら，発信できるスペースとします。
- 都市農業の紹介などとともに，地場野菜の販売等も想定します。
- 図書機能との連携も図ります。

主な機能		施設内容	規模
カフェ スペース	レストラ ン方式	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 地場野菜を使用するなど，国分寺の魅力発信として，農と食を体感できる場を目指す ◇ 厨房区画及び電気，ガス，水道の引込み，仕上げを除く床，壁，天井までは整備し，その後の内装は事業者にて整備 ◇ ホールにおける宴会や会議時の飲食喫茶サービスを供給できる，厨房のある飲食施設を設ける 	約 260 m ²
	オープン カフェ方 式	<ul style="list-style-type: none"> ◇ カウンターで注文し，気軽に着席できるオープンカフェ方式のゾーンを設ける ◇ 最低限の床，壁，天井の整備 	
合計			約 260 m ²

■施設イメージ（参考事例）



コミュニケーションカフェ
[山形まなび館ホームページより]



カフェだんだん
[青梅市役所ホームページより]

(2) 「感じる」：ホールスペース

文化的なイベントで感性を育むホール

講演会や、シンポジウムなど文化的なイベントをはじめ、パブリックビューイングなど、市民の感性を刺激して、共有することで感性を育み、ぶんかを育てるための空間です。

- 市内の主要なホール（演奏やコンサートに適したいずみホール，舞台があり，演劇や演奏の発表会に適した本多公民館ホール）との機能分担を考え，駅直上の立地を生かし，情報発信と交流を誘発する開かれた空間としてのホールを目指します。
- 可動式間仕切りにより2部屋に分割できるようにします。
- 小ホールは一定期間ギャラリーの活用もできる仕組みを検討します。
- ホールにおけるイベントを通じて参加者の交流を促進できるよう，簡単なパーティーなどの飲食対応シーンにも対応できるような設備とします。
- 上階が居住空間であることを考慮し，適切な防音・遮音性能を検討します。
- 情報発信と交流を目指すために，屋上側は内外一体利用を視野に入れ，屋内側はホール・ホワイエ間の壁に窓やモニター等を設ける等の配慮をします。

主な機能		施設内容	規模
ホール	客席	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 座席数 椅子のみシアター形式 260 席，スクール形式 150 席，テーブル着席簡易パーティ 100 名程度 ◇ 可動式間仕切り 防音・遮音性能 ◇ 可動ステージ 簡易ステージ 9 台（移動式），ステージ用階段 2 台 ◇ スクリーン 常設 1，自立型 2 程度 ◇ プロジェクター 常設 1，移動式 2 程度，スクリーン及びプロジェクターの設置場所は，設計段階で検討する ◇ 必要な備品等 スタッキングチェア（300 程度），会議用テーブル（50 程度），演目看板，宴会時に使うテーブルクロス・椅子クロス，紅白幕，音響，照明，空調設備（利用者が操作可能なもの） 展示パネル，展示に必要な備品等 	約 320 m ²

バック スペー ス	倉庫 約 80 m ²	◇ ホールで使用する備品が収納できるスペース	約 200 m ²
	控え室 約 20 m ²	◇ ホールと行き来でき、ホールの様子が見える設備 ◇ 親子観覧室を兼ねる たたみ敷き 10 畳程度、座卓や子どもの遊具等の収納を適宜設ける ホール内部の音も流せる仕組み	
	パントリー 約 15 m ²	◇ 簡単な調理（温めるなど）が可能な設備 ◇ ミニキッチン、湯沸かし器、冷蔵庫	
	その他 約 85 m ²	◇ 人や荷物などがスムーズに移動できるスペース	
合計			約 520 m ²

■施設イメージ（参考事例）



多目的ホール
[コクヨホームページより]

(3) 「知る」：行政コーナー

まちの魅力を知るライブラリーと暮らしの相談窓口

国分寺市の魅力と、暮らしを豊かにする情報を「知る」ことができる機能として、常に新しい情報が入る変化していくライブラリー。リクエストした資料の受取・返却機能も備えます。

- 現在の提供サービスを基準としつつ、時代のニーズにあったサービスをしていくことを想定し、フレキシブルに空間を活用できるようにします。
- 動線、防犯、個人情報保護・情報セキュリティに配慮して整備します。
- お客様スペースは、図書コーナーの読書スペースと合わせて、市の魅力発信コーナーとして一体整備します。
- 駅直上の立地性を踏まえ、人が滞在するための機能とは棲み分けを行い、本を媒介として、人々が交流するための情報発信施設として整備します。

- 「常設本棚」は、地域の魅力発信関連に絞る一方で、市内図書館と連携しながら企画展のように季節替わりのテーマによって編集された「企画展本棚」を設けます。
- 市内図書館の書籍リクエスト資料の受け渡し窓口としての利用の増加も視野に入れ、整備します。
- 読み聞かせや本を通じた交流プログラムなどを想定し、椅子は自由に移動できる仕組みとします。
- 本を持ち出してカフェや屋上で読めるよう、ブックディテクションゲート（2～3箇所）設置します。

主な機能		施設内容	規模
市民課サービスコーナー	執務室 約 60 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 通常時最大6名体制を踏まえた設備とする ◇ 休憩室や在庫置き場、ロッカー等 ◇ 来訪者対応のカウンターを二箇所程度備える ◇ お渡し窓口（レジ） ◇ 市民課閉館時はシャッター等で施錠 ◇ 現行水準のサービスが前提 	約 100 m ²
	お客様スペース 約 40 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 来訪者の記入や待合スペース及び市の魅力発信コーナーとして整備する ◇ 妊婦や車いすの人にも対応できる記載台 	
図書コーナー	読書スペース 約 120 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 常設本棚：約 1500 冊 地域の情報、魅力発信に関する書籍、就労支援資料、子育て情報資料、行政情報資料 ◇ 企画本棚：約 500 冊分（一部ワゴン什器） ◇ 読書のための椅子 ◇ 閲覧用テーブル4台程度 ◇ ブックディテクションシステム 	約 160 m ²
	図書窓口 約 20 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 必要な設備 自動貸出機、レシートプリンタ（2台ずつ）、自動返却、利用者用端末、バンダー付コピー機、ブックポスト ◇ 予約受取待ち本棚：約 1000 冊程度 	
	執務室 約 20 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 2人分のデスク、PC、プリンタなど就労環境を整える 	
合計			約 260 m ²

魅力発信コーナー			
市民課サービスコーナーお客様スペース（40 m ² +図書コーナー読書スペース 120 m ² ）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ お客様スペースと読書スペースを一体整備活用し、市の魅力発信のための多目的スペースとする ◇ 壁面にスクリーン、及び天井釣りプロジェクターを設ける ◇ フロアには国分寺市の大きなマップを掲示する 		約 160 m ²

■施設イメージ（参考事例）



証明サービスコーナー
[福岡市（情報プラザ）ホームページより]



観光案内ルーム
[山形まなび館ホームページより]

（４）「学ぶ」：民間活用スペース２（学びの交流スペース）

近隣の大学と市民が共に学ぶ、まちなかキャンパス

国分寺市の魅力を「学び」の視点から発掘・発信するまちなかキャンパスとして、近隣の大学、研究所や市民活動団体等と連携し様々な分野の学びを提供します。

- 大学による学びのサテライトスペース。地域貢献，社会貢献の観点から市民講座の拡張版プログラムの提供や各種研究会の発表などを行います。
- 大学等への床の貸出を行い，学びの交流スペースとして活用します。
- 大学の利用がない時は，市民グループへの貸出も検討します。
- フロアと連携した活用も想定し，共用部の廊下側は可動式間仕切りとします。

主な機能	施設内容	規模
学びの交流スペース	<ul style="list-style-type: none"> ◇仕上げを除く床，壁，天井までは整備し，その後の内装は事業者にて整備 ◇共用廊下側に可動式間仕切り ◇30～40席程度のスクール形式のテーブル，椅子，可動式黒板，壁面黒板，ポップなど（事業者設置） 	約 60～70 ㎡
合計		約 60～70 ㎡

■施設イメージ（参考事例）



多目的ホール
[専修大学（サテライトキャンパス）ホームページより]



スタジオB
[専修大学（サテライトキャンパス）ホームページより]

(5) 「なごむ」：屋上スペース

多世代が自由に過ごせる緑ある屋外空間

屋外を活用した開放感のある場所で、様々な年齢層の人がくつろぎ、なごむことのできる空間です。こどもが遊んだり、大人がのんびりと空を眺めたりできるみんなの庭のようなイメージです。

- 民間活用ゾーンなどと内外一体活用し、憩いのスペースを創出します。
- 作りつけの遊具などの常設はせず、芝生やウッドデッキ（テラスゾーン）などの活用自由度の高いフラットな屋上にし、人が自由に交流し、集う場所にします。
- 地域住民や市民とともに、ワークショップ等を通して植栽の維持・管理（コミュニケーションガーデンなど）を行うことも想定します。
- 様々な年齢層の人がくつろぎ、なごむことのできる空間になるようイス、テーブル、ベンチ等を設けます。

主な機能	施設内容	規模
屋上スペース	◇子ども達が自由に遊べる緑の広場 ◇植栽を利用したガーデン ◇テラス空間での飲食など 水場、物置、電源、日よけ（可動式）、イス、テーブル、ベンチ等	約 670 m ²
合計		約 670 m ²

■施設イメージ（参考事例）



屋上スペース
[キラリナ京王吉祥寺ホームページより]

(6) フロア全体：共有スペース

- 一体的に連動した企画，にぎわいを生み出すためのしくみを作るため，一体的な運営を図ります。
- フロア全体のコーディネートスタッフを配置，各機能や連携団体をつなぐ役割を担います。
- 多機能と一体的なイベントや連携を大いに目指します。
- 公益フロア全体で一体的なイメージを作るため，壁・床の材質や色，フロア全体のサインなど，統一感を図ります。
- なるべくフロア全体が同じ営業時間となるよう調整します。
- ホワイエや通路にベンチを設け，憩いの空間となるよう配慮します。
- ユニバーサルデザインに配慮し，すべての人が快適に利用できるよう整備します。

主な機能		施設内容	規模
トイレ スペース	トイレ	◇適切な数のトイレ 多目的大1，男性用大1・小3，女性用大4程度 オムツ替え台	約40㎡
子育て 応援ス ペース	授乳室・ おむつ替 えスパー ス	◇授乳や赤ちゃんへの食事ができる設備 椅子，テーブル，ミルク用給湯器，ベビーフード 等の自販機 ◇おむつ替えや，赤ちゃんの着替えなどができる設 備，ベビーベッド	約17㎡
総合 窓口	窓口	◇フロア全体の管理事務及びお客様への案内など窓 口業務を行う カウンター，ロッカー	約30㎡
	事務室	◇窓口1名，執務3名程度のオフィス環境 デスク，椅子，PC，プリンタなど ◇管理者の休憩コーナー	
防災備 蓄倉庫		◇震災時の一時帰宅困難者対応のための備蓄倉庫	約6㎡

■施設イメージ（参考事例）

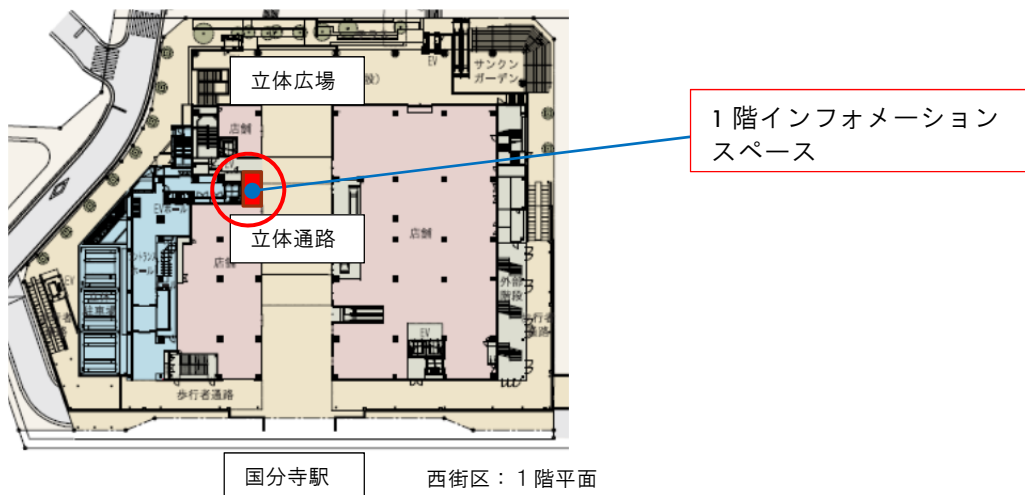


授乳・おむつ替えスペース
[キラリナ京王吉祥寺ホームページより]

(7) 1階インフォメーションスペース

- 5階公益フロアへの誘導も図れる場所として整備，活用します。
- イベント等の紹介ができるポスター掲示スペースのほか，観光案内や国分寺市の魅力を効果的に発信するためにデジタルサイネージ設備の導入を検討します。
- 災害時のインフォメーション機能としての役割を検討します。

主な機能	施設内容	規模
1階インフォメーションスペース： <ul style="list-style-type: none"> ・ 5階公益フロアの情報発信，PR ・ 国分寺市の魅力紹介 ・ 観光案内 ・ 道案内・商業施設案 ・ 災害時対応 	♪ イベント告知等ポスター掲示スペース ♪ 資料配架ラック ♪ デジタルサイネージ	約 20 m ²
合計		約 20 m ²



3-3. 施設レイアウト図

【行政コーナー】約 260 ㎡

■市民課サービスコーナー：約 100 ㎡
現在の提供サービスを基準としつつ、フレキシブルに空間を活用

- 執務室：約 60 ㎡
 - 来訪者対応のカウンターを設け、別にお渡し窓口（レジ）を配置する
 - 市民課閉館時はシャッター等で施錠（お客様スペースは共用部として解放）
- お客様スペース：約 40 ㎡
 - 必要な設備等
記載台（車いす用含む）、待合のための椅子

■図書コーナー：約 160 ㎡
図書機能としてまちの魅力を発信する資料を開架・貸出。本を媒介として人々が交流するための情報収集・発信の場

- 読書スペース：約 120 ㎡
 - 常設本棚：約 1,500 冊
地域の情報はじめ、魅力発信に関する資料を揃える
 - 企画本棚：約 500 冊
本は固定せず、季節に応じてセレクト
ワゴン仕器等で他施設の企画と連携できる仕組み
- 窓口・予約資料棚スペース：約 20 ㎡
 - 必要な設備等
自動貸出機、レシートプリンタ・自動返却・利用者端末・コピー機、ブックポスト、予約受取本棚約 1,000 冊
- 執務室：約 20 ㎡

■魅力発信コーナー：約 160 ㎡
(市民課サービスコーナーお客様スペース 40 ㎡+図書コーナー読書スペース 120 ㎡)

市の魅力発信のために活用する多目的スペース

- スクリーンやプロジェクターを活用し、市の資源等の発信を行う
- フロアに国分寺市の大きなマップを掲示する
- デジタルサイネージを活用した情報発信を行う
- 活用イメージ
本を通じた交流プログラム、読み聞かせ、カフェと連動した雑誌の貸出、自主企画に応じた蔵書の入れ替え、イベントなど

【フロア全体：共用スペース】

- 一体的に連動した企画、にぎわいを生み出すための仕組みをつくるため一体的な運営を図る
- フロア全体で、統一したサインをつくる
- トイレは適切な数を設け、多目的トイレも設置する
- 授乳室、オムツ替えの部屋を設ける
- フロア全体管理事務及びお客様対応の案内窓口として、フロア窓口を設ける
- ロッカー、防災備蓄倉庫を設ける
- ホワイエや通路にベンチを設け、憩いの空間となるよう配慮します。

【屋上スペース】約 670 ㎡

■民間活用スペースなど一体活用でき、憩いの空間を創出する

- 芝生やウッドデッキ（テラスゾーン）など、活用自由度が高いフラットな屋上空間とする
- 必要な設備等
テラスゾーンの一部に日よけ（可動式）
水場・物置・電源・植物
- 屋上の活用イメージ
子ども達が自由に遊べる緑の空間
テラスで飲食、コミュニケーションガーデン等
- 様々な年齢層の人がくつろぎ、なごむことのできる空間になるようイス、テーブル、ベンチ等を設けます。

【ホールスペース】約 520 ㎡

情報発信と交流を誘発し、開かれた空間として多目的に利用できるホール

■ホール：約 320 ㎡

- 座席数：椅子のみシアター形式 260 席、スクール形式 150 席、テーブル着席簡易パーティー100 名程度
- 2重壁、浮き床にするなど、防音・遮音性を確保する
- 可動式間仕切り(防音・遮音性能あり)により2部屋での利用が可能
- 情報発信と交流を目指すために、屋上側は内外一体利用を視野に入れ、屋内側はホール・ホワイエ間の壁に窓やモニター等を設ける等配慮をします
- 必要な設備等
可動ステージ、スタッキングチェア・会議用テーブル・スクリーン（常設1、自立型2程度）・プロジェクター（常設1、移動式2程度）・演目看板・展示パネル（展示用備品）・展示に適した照明器具・利用者が操作できる照明、音響、映像、空調等の設備
- ホールの活用イメージ
市民活動の発表の場、市民の企画をPR、パブリックビューイング、映像上映会、パーティー、展示会、販売会、講演・講座、ワークショップなど

■控え室：約 20 ㎡

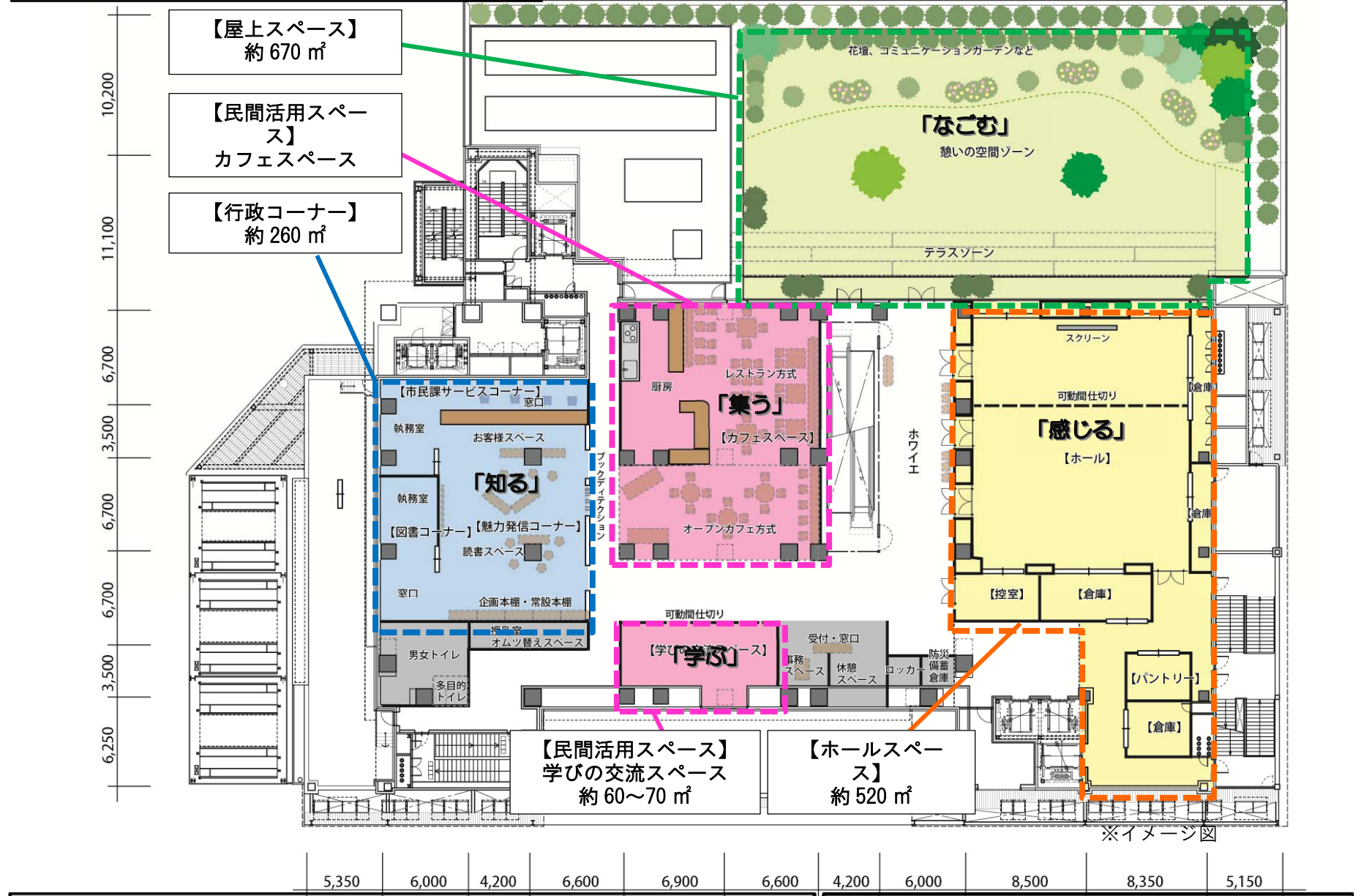
- ホールと直接行き来でき、ホールの内部を伺える窓を設ける
- 子ども連れの親子などの観覧席にも兼用できる

■パントリー：約 15 ㎡

- ホールでの飲食に対応可能な設備を整える
- 必要な設備等
シンク・湯沸し・冷蔵庫など

■倉庫：約 80 ㎡

- ホールで使用する備品が全て収納できるものとする



【民間活用スペース】約 330 ㎡

■学びの交流スペース：約 60~70 ㎡
大学による学びのサテライトスペース
※必要備品は大学・民間側が調達

- 大学のサテライトキャンパスとしての活用のほか、市民講座の拡張版プログラムの提供や各種研究会の発表などを行う

■カフェスペース：約 260 ㎡
休憩・歓談・交流の場としてのカフェ

- レストランゾーンに加え、来訪者が気楽に立ち寄り交流できるオープンカフェゾーンを設ける
- 地場野菜を使用したり販売するなど、国分寺の魅力発信を行う
- ホールで宴会時に飲食サービスを提供できる厨房のある飲食施設を設ける

【1階インフォメーションスペース】約 20 ㎡

5階フロアへの誘導も図れる場

- 5階公益フロアのPR（イベント告知等）や国分寺市の魅力紹介等（パンフレット配布等）
- 観光案内、道案内・商業施設案内
- 災害時における情報提供
- 必要な設備等
デジタルサイネージ、資料配架ラック
ポスター掲示スペース



4. 企画・運営・施設管理

4-1. 企画・運営方針

「企画・運営方針」では、公益フロアを活用した企画・運営に係る市の考え方を示します。

(1) 基本的な考え方

1) 公益フロア基本理念の実現

国分寺市の歴史や自然環境，農産物などの資源を見直し，暮らしをより豊かに楽しむこと（＝国分寺市のぶんか）を目指し活用基本方針で定められた，基本理念「魅力を発掘・発信するまちのぶんかターミナル」を実現するため，定められた4つの基本方針

- I. 国分寺市の魅力を発掘し，学びを通して発信する拠点
- II. 市民が主体的に活動し，新たな魅力を生み出す拠点
- III. 市内の魅力ある場所，人，活動とつながる結節点
- IV. まちを担う若い世代が地域とつながり暮らしを豊かにする拠点

の達成を目指した企画・運営とします。

2) 複数の機能を持つ“まちのぶんかターミナル”としての一体的な企画・運営

各機能を有すスペースが，個々に運営されるのではなく，市民等が，“まちのぶんかターミナル”として一体的な雰囲気を感じられように配慮し，市民等自らが，人と人，人とまちのつながりを育む場として公益フロア全体を運営していきます。そのために，以下のことを進めます。

- “まちのぶんかターミナル”としての雰囲気を統一した室内サインやイメージづくりを進めたり，国分寺市の魅力を発信するイベントを開催したりするなど，公益フロア全体を活用してイメージの形成を図ります。
- イベントやトピックスなどの情報を，収集・一元化して発信するなど，公益フロア全体で統一感のあるサービスを提供します。
- 市民等が何度も公益フロアを訪れたいくなるような雰囲気づくりや仕掛けづくりを行います。
- 民間活力を導入した事業（以下「民活事業」といいます。）の開催では，複数の機能が連携して同時に開催したり，関連する企画を行うなど，個々のスペースを有機的に結びつけ，展開します。
- 市民等の交流が新たな文化を生み出し，ここから発信できるよう，民活事業や市民等との共催事業を通して，市民等が企画・運営に参画できる仕組みを整えます。

- ぶんかを創造する取り組みが行いやすい空間を演出します。
- ホールや屋上スペース等の貸出（以下、「貸館事業」といいます。）においては、受益者負担を原則としつつも、高齢者、障害者等に配慮します。
- 各スペースを活用して官民が連携し、子育てや就労についての相談など、市民等の様々なニーズへの対応を図ります。

3) 市民等が主体的に活用，管理主体と連携する企画・運営

国分寺市での暮らしを楽しみたい，まちで活動したいという市民等が，公益フロアを積極的に活用し，時には企画・運営にも参画できる公益フロアを目指します。市民等が事業や運営に主体的に関わることで，公益フロアに対する愛着を育むとともに，国分寺市の魅力に対する誇りを醸成していきます。

4) 市民等の知識の活用

市民ニーズや地域課題，活動の展開に対応していくために，市民等の企画・運営への参画を通して，市民等の知識を最大限活用します。

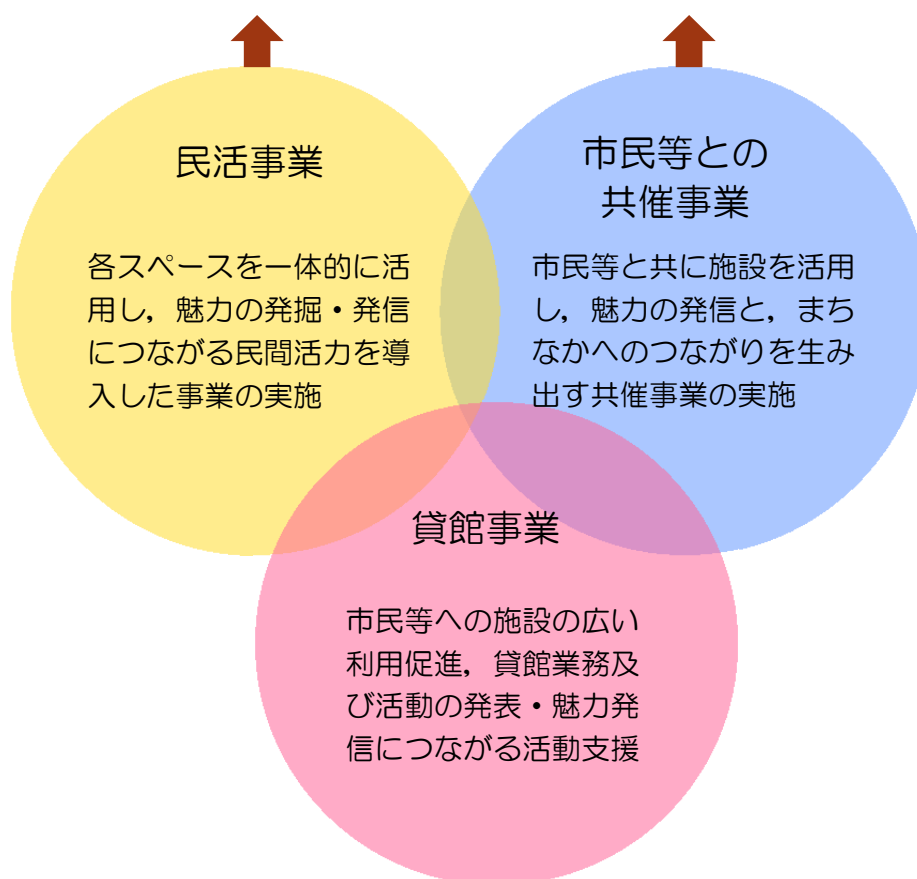
5) 安心・快適な施設運営

駅前の至便な施設であることから，再開発ビル内商業施設への来店者のほか，市民等だけでなく市外からの来訪も想定されます。これらの市民等や来訪者にとって，安心・快適を第一に施設を運営します。また，乳幼児がいても安心して利用できる空間や設備を整備し，子育て世代が安心・快適に利用できる施設を運営します。

(2) 各スペースの企画・運営の方向性

公益フロアが多くの市民等に愛され、暮らしの中で必要な施設と認識してもらうために、また、活用基本方針に沿って、民間のノウハウを最大限活用すること、市民が主体的に活動し新たな魅力を発信すること、既存の3つの公共施設が持つ機能を維持・活用することから「民活事業」「市民等との共催事業」「貸館事業」を実施します。「民活事業」「市民等との共催事業」の実施にあたっては、各機能での国分寺市の地域資源を発掘・発信する活動の展開を軸に、複数の機能を有する公益フロアの特徴を活かした一体的かつ創造的な活動を企画・運営することで、この公益フロアから常にまちの魅力を発信し、新たな取り組みが生まれ続けているようなイメージを形成し、さらには国分寺市の魅力の形成に繋がります。また、「貸館事業」においては、市民等へ広く利用促進を図ります。

公益フロアイメージ・国分寺市の魅力の形成



1) 国分寺市のぶんかを発信する民活事業の展開

国分寺市の暮らしやまちを楽しみたい市民等が繰り返し来訪したくなるような、常に「発見」と「楽しみ」がある公益フロアを目指し、民活事業を積極的に展開します。国分寺市の魅力を発掘・発信する事業として、様々なジャンルやテーマで企画を検討するほか、各機能が連携し、公益フロア全体として相乗効果を生み出す一体的な民活事業も企画し、実施します。

2) 市民等が主体的に活用する共催事業の企画

市民等が自発的に地域活動に参加できるしくみとして、公益フロアの基本理念や企画・運営の方針に基づき、市民等が管理主体とともに共催できる事業を実施します。市民等と共催で事業を企画することで、ネットワークを構築し、市民等の地域づくりへの一步を踏み出すきっかけをつくり、市民等の活動育成、まち全体のぶんかの醸成を図ります。

3) 貸館事業の推進

公益フロアイメージの形成のため、民活事業や共催事業だけでなく、貸館事業でも市民等へ広く利用促進を図ります。また、貸館事業における使用料は公益フロア運営上重要な財源であり、かつ複数の機能がワンフロアにそろった公益フロアでにぎわいを創出するため、積極的に利用促進活動を行います。

①「集う」：カフェスペース

公益フロア利用者の交流、休憩、歓談の場とし、国分寺の魅力を発信できるカフェを設置します。

i. 国分寺市の魅力を発信する飲食の提供

国分寺産の農産物を使用したメニューの開発、飲食を提供します。また、幅広い層が訪れる集いの場として、アルコールの提供も行います。

ii. 交流を促進する民活事業の企画・実施

「集う」の整備方針である、様々な人が集まり交流するためのスペースとして、交流を促進するイベントを年間利用可能日の1割以上企画し、実施します。

- 想定される事業：地元農家から育て方や都市農業についての話を聞き、新しい食べ方を体感する食イベント、子育て世代が交流し、互いに子育ての相談ができるパパ会・ママ会など

iii. 国分寺市を中心とした地域の魅力発信につながる物販スペースの運営

国分寺市を中心とした地域の農産物や特産品，在住デザイナー，地元企業などの商品のセレクトを行い，物販スペースを設けて販売します。また，地元農家，企業及び姉妹都市等と連携した物販企画なども積極的に検討します。

■想定される事業：地元農家による月 1 収穫マルシェ，地元の名店が並ぶパンマルシェなど

iv. テイクアウト飲食やホールのパーティー対応業務

利用者の他機能の利用や利便性を考え，スペース内の飲食だけでなく，テイクアウト式の飲食の提供を行います。また，ホールの多様な活用を支援する業務として，懇親会や展示会のオープニングなどに合わせたパーティー対応業務も行います。

■スペース利用イメージ



カフェ利用イメージ（むさしのプレイス）

②「感じる」：ホールスペース

文化的なイベントをはじめ，市民等の感性を刺激し，共有することができるホールの企画・運営を目指します。魅力発信を誘発し，開かれた空間として，多様な人々が多目的に利用できるホールを整備します。そのために，物販及び飲食が可能なホールとします。

i. 基本理念，コンセプトに沿った民活事業の実施

まちの魅力発信の場としてテーマを設け，民活事業を年間利用可能日の 1 割以上企画し，実施します。民活事業を高頻度で行っていくことで，ホールの利用イメージや公益フロアイメージを形成します。

■想定される事業：国分寺市で撮影された映像の上映イベント，クラフト作家が集まるマーケットなど

ii. ホールの貸館業務・利用相談・活用促進

市民等が自らの活動を発表する場として、貸館対応だけでなく、利用にあたっての相談や目的にあわせた活用支援に取り組みます。企画へのアドバイスやサポートを行うことで、市民活動の支援とホールでの催しをより魅力的に、効果的なものにしていきます。

iii. 活用団体の発掘・誘致

基本理念や企画・運営方針に基づき、市民等を管理主体自らが発掘し、ホール利用への呼びかけや誘致、事業の実施提案などを行い、新たな活動者・利用者の獲得を目指します。

iv. 市民等との共催事業の募集，選定

年2回程度、管理主体とともに取り組みたい事業を市民等から広く募集し、選定のうえ共催事業として実施までともに取り組みます。事業を募集することで、新たな視点の取り組みを発掘するほか、施設とともに運営に協力してくれる市民等を育成します。共催事業は使用料や広報などにおいて、インセンティブをつけることを検討します。

v. ホール空き時間の有効活用の検討

上記事業を行っていても、ホールの利用が空く時間がある場合は、情報を発信するスペースなど、有効活用を検討します。

③「知る」：行政コーナー

③-1. 「知る」図書コーナー

「知る」の整備方針である、常に新しい情報が手に入るライブラリーとして、魅力発信と暮らしを豊かにする情報を本を媒体にして、様々なプログラムの展開を図ります。

i. 地域の魅力発信に沿った蔵書と本を軸とした企画展の実施

所蔵資料に加えて定期的にテーマを定め、地域資源と連動した資料を配架し、各テーマで本を使った企画（イベント）を実施します。定期的に本棚の一部を企画棚として蔵書を入れ替えして、いつでも新しい情報、発見がある図書コーナーづくりを行います。また、ホールやカフェなど他機能と連動した資料の配架や企画展も積極的に取り組みます。

ii. 近隣図書館、事業者等との連携

資料の配架や企画展の検討において、近隣の図書館や民間の書店、本を軸とした事業者等と積極的に連携を図り、ネットワークを構築します。

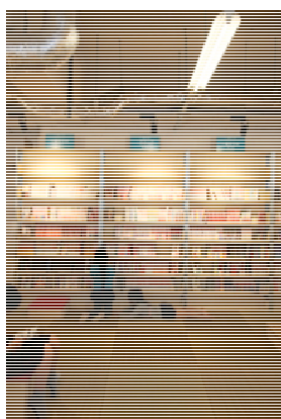
iii. リクエスト本・CDの受け渡しと返却対応

他図書館と同じく、リクエストされた本・CDの受け渡しを行います。また返却については、カウンター返却のほかブックポストの設置場所を検討します。

iv. 時代のニーズに合わせた技術やICTの導入

電子図書やWi-Fiスポット等の導入を検討し、時代のニーズにあわせた図書スペースづくりに努めます。

■スペース利用イメージ



まんがぱーく（立川市こども未来センター）

③-2. 「知る」市民課サービスコーナー

各種証明書の発行、母子健康手帳の配付など現在の窓口サービスを基準としつつ、申請書類の取次業務などのサービス提供を行い、市民の利便性向上を図ります。また、小平市をはじめとした広域連携を検討します。

③-3. 「知る」魅力発信コーナー

市民課サービスコーナーのお客様スペースと図書コーナーの読書スペースを、魅力発信コーナーとして一体化させることで、それぞれに訪れた市民等が目的とは違う情報を取得、発見や交流を生む仕掛けを構築します。国分寺市の魅力を発信し、来訪者に伝える場とします。壁面を利用した映像や地図の投影などを行い、行政コーナー利用者だけでなく、公益フロアの利用者全体に地域情報を発信する場をつくります。

④「学ぶ」：学びの交流スペース

大学と連携した学びの空間として、国分寺市の魅力を「学び」の視点で発信するまちなかキャンパスとして、様々な分野の学びを提供します。大学と市民等がつながる場として、ともに学び、交流ができるよう目指します。

i. コンセプトに沿った市民等の学びにつながる講座などの民活事業の実施

大学のまちなかキャンパスとしての利用のほか、市民等のニーズを捉え、基本コンセプトに沿った市民等の学びにつながる講座を企画し、実施します。

■想定される事業：コミュニティビジネスに関するセミナー、地域づくり実践講座など

ii. 複数の近隣大学の連携・利用促進

国分寺市近隣の大学同士が、民活事業でつながり、スペースの利用を促進することで、大学同士のネットワークの構築と、多様な学びの場の提供を目指します。

iii. 地域連携の推進

大学生が地域をフィールドに活動する研究や講座などの実施を模索します。また、地域の課題やニーズをもとに、市民等と大学生がともに課題解決にむけて取り組む場づくりを目指します。

iv. 空き時間の有効活用の検討

上記事業を行っていても、講座の合間などに利用が空く時間がある場合は、来訪者への学習スペースとしての開放や、市民等の発表会などへの有料貸し出しなど、有効活用を検討します。

■スペース利用イメージ



サテライトキャンパス（専修大学ホームページより）

⑤「なごむ」：屋上スペース

他機能と一体的な活用をすることができる屋外空間として、緑ある憩いの場づくりを目指します。いつでも気軽に利用できる空間をつくるほか、体験型の緑のワークショップや他機能との連動イベントなども行います。

i. コミュニケーションを生み出す植栽の維持管理

屋上の植栽については、維持管理または屋外でのイベントで利用者とコミュニケーションを生み出すことができるような植物を選定し、維持管理の仕組みづくりに取り組みます。

ii. 屋外空間を生かした企画の実施，貸出利用・企画支援

屋外であり、緑のある空間を生かした企画の実施や、他機能と連動したイベントなどを、年間利用可能日の1割程度企画し、実施します。また、市民等に広く貸し出し、子育て世代が楽しめる企画や、健康増進につながる体験講座など、屋外アクティビティの実施支援を行い、にぎわいの創出に努めます。

■スペース利用イメージ



公園での読み聞かせプログラム（武蔵国分寺公園）



あおぞらガーデン（立川ルミネ）

⑥フロア全体：共用スペース

共用スペースは公益フロア利用者が安心・安全に使えるよう維持管理します。また、受付では地域での活動をスタートさせたい市民等の後押しができるよう、各機能と連携して運営します。

■共用スペース：トイレスペース，子育て応援スペース（授乳室，おむつ替えスペース），総合案内窓口，防災備蓄倉庫

⑦ 1階インフォメーションスペース

5階の公益フロアの情報発信のほか、駅利用者にも地域情報を発信していくものとします。紙媒体のみならず、メディア（映像、音）などの情報媒体も含めて、国分寺市全体の情報を発信します。独自の情報媒体の作成、配布など、コンテンツづくりも強化します。また、災害時の情報提供も行います。

（3）開館準備

公益フロアが開館して間もなく多くの市民等に利用されるには、市内外に向けて様々な方法を使い、PRしていくことが重要です。そのためには、公益フロアの周知や事業への期待感を高めつつ、活用する市民等とのネットワークの構築、主体的な活用につながる事業の準備を開館前から行うことが必要不可欠です。平成30年のオープンに向け、公益フロアの周知や、事業に関わる市民等のネットワークづくりのための事業を展開します。

1) 周知・PR活動

広報やホームページ、公益フロアのありかたを紹介する冊子などを作成・活用し、整備の進捗状況や方向性などの情報を発信し、市民等への周知・PRを図ります。

2) 関わる市民等の発掘・活用アイデアの検討

準備段階から市民等への公益フロアの周知と、具体的な活用に向けたワークショップなどを開催し、オープン後すぐに各機能を利用・活用する市民等を発掘します。また、意見交換を行いながら、市民等のネットワークを構築し、オープン後実施したい企画などを検討して、開館後すぐ実施できるように支援します。

3) 公益フロア全体のデザインコードの検討

個々の事業にふさわしい空間を創出しつつ、かつ一体感を出すことができる公益フロア全体のデザイン及び共通のデザインのルールを検討します。

4-2. 施設管理方針

「施設管理方針」では、公益フロアの適切な維持管理及び利用に係る市の考え方を示します。

(1) 基本的な考え方

公益フロアが誰もが気軽に利用でき、日常的な活動や交流を生み出す場となるため、各機能や企画・運営の方向性をふまえ、施設管理を行います。

施設管理において重要な視点は、利用者には「利用のしやすさ」、管理者にとっては「管理のしやすさ（施設管理の効率性）」であることから、両方のバランスに配慮した利用ルールとなるよう条例や規則等を定めます。

1) わかりやすい利用ルール

誰もが気軽に施設を利用できるよう、わかりやすい利用ルールを定めます。明確な利用ルールは利用への安心感を生み、かつ施設管理の効率化にも寄与します。

2) 公平で公正な施設管理

公益フロアとして公平性と公正性を持ち、他市内公共施設とのバランスを考慮します。

3) 多様な市民ニーズへの柔軟な対応

基本理念の実現を目指し、時代に沿った市民のニーズをとらえ、柔軟な対応も可能な仕組みづくりを目指します。

(2) 利用ルール

1) 公益フロアの休館日

原則として、公益フロアの年末年始及びビル全体の休館日とします。

施設利用の安全性を確保するため、施設のメンテナンスが必要な場合には、市民等の利用に支障のない範囲で臨時の休館日を設けます。

2) 公益フロアの開館時間について

公益フロアの開館時間は次のとおりとします。

午前8時30分～午後10時

参考：既存施設の開館時間

□国分寺Lホール：午前9時～午後10時

□市民課国分寺駅北口サービスコーナー：午前8時30分～午後7時

□本多図書館駅前分館：午前9時30分～午後5時

3) 各スペースの開館時間

各スペースの開館時間は、既存の各施設の設置条例等に基づきながらも新たに設定するものとし、民間ヒアリングやワークショップなどでの市民等の意見を踏まえ、国分寺駅北口再開発ビルの中の公益フロアであることを考慮しつつ、各スペースを一体的に利用するケースを想定し、柔軟な対応が可能になるように配慮します。

4) 貸館事業について

次のスペースについては貸出を行うスペースとし、受益者負担の原則に基づきながら使用料を設定します。

今後、具体的な利用方法や運営体制の検討にあわせて、適切な貸出方法および使用料を設定していくものとします。

区分	貸出対象
ホールスペース	ホール，控え室
屋上スペース	屋上スペース

そのほかのスペースについては、一体的な施設管理、各機能の連携と相乗効果を生み出す視点から、利用方法に応じて、管理主体によって貸出方法を検討します。

4-3. 運営体制方針

(1) 基本的な考え方

「運営体制方針」では、運営するための望ましい体制を示します。公益フロアの運営体制は、3. 企画・運営方針に基づき、基本理念の実現を目指し、市民等が主体的に活用、管理主体と連携することができる組織づくりをめざします。

活用基本方針、および3. 企画・運営方針、4. 施設管理方針をふまえると、市民ニーズに柔軟に対応でき魅力的な民活事業が求められること、かつ公益フロアとして既存の3つの公共施設が持つ機能を担うことから、事業方式として指定管理者制度を活用します。

1) 自主事業の積極的な展開と民間活力の導入

企画・運営方針から、施設イメージ・国分寺市の魅力の形成において、各スペースでの魅力的な民活事業の展開が重要であることが掲げられました。各スペースの民活事業は指定管理者の自主事業とし、民間ノウハウを積極的に生かしていきます。

2) 各機能の連携、情報共有

施設全体の統一感を生み出すため、各機能の管理主体が密に連携を図り、互いの企画や対応などの情報を共有します。

3) 専門スタッフの起用

国分寺市の魅力を発掘・発信する創造的な企画や自主事業を実施するには、企画力や創造力などが求められます。また地域課題の解決や、市民等と連携して事業を進めるにはコーディネート力も重要です。目指す方向性の実現にむけて、豊富な知識と経験を有する専門スタッフを配置します。

4) 市民等との連携

まちと人をつなぐ結節点を目指していることから、活躍している市民等と連携・協力し、国分寺の魅力発掘・発信に取り組むことができる運営体制とします。

5) 利用者満足度調査と事業実施状況自己評価

基本方針や企画・運営・施設管理計画に沿った事業が開催されているか、事業を実施した効果の検証のため施設利用者を対象とした満足度調査を実施します。施設利用者の満足度を把握することで、施設管理や事業等の改善と事業実施状況自己評価に活かします。

(2) 事業方式・運営形式

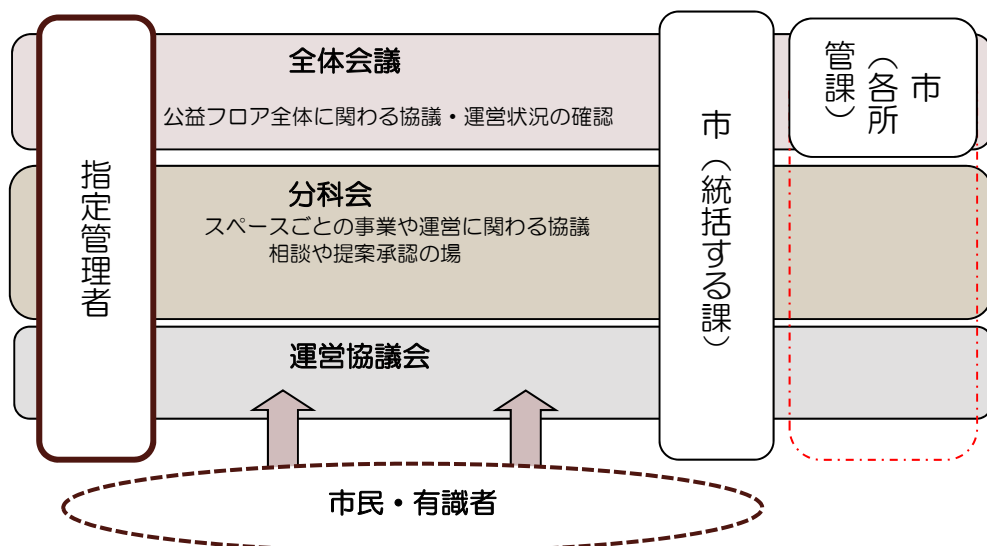
事業方式については、指定管理者制度を活用し、下記の運営体制とします。

	機能	区分	企画運営	維持管理
5階	集う	カフェスペース	指定管理者 (業務委託含む)	
	感じる	ホール		
	知る	図書コーナー		
		魅力発信コーナー		
		市民課サービスコーナー		
	学ぶ	学びの交流スペース		
	なごむ	屋上スペース		
共用スペース	総合案内窓口その他共用スペース			
1階	情報発信	1階インフォメーションスペース		

施設の維持管理は指定管理者が一括して行います。施設の企画運営に関しては、各機能の効果的な運営のため、指定管理者が運営するか、専門事業者と連携して運営します。市民課サービスコーナーの企画・運営は市直営とし、維持管理は、指定管理者となる業者への業務委託を検討します。

(3) 運営体制

一体的な運営を目指すこと、また市民等が主体的に運営に関われるしくみづくりとして、次のような運営体制を構築します。市民と有識者からなる運営協議会は、指定管理業務の一環と位置付け指定管理者が招集、開催することとします。市と指定管理者は公益フロア全体の運営状況を報告、確認する場として全体会議を実施、より詳細の業務に関する相談、ならびに提案承認を行う場として定期的に分科会を実施します。これらの会議を実施することで、事業実施期間中の様々な課題対応や、市民ニーズの反映を検討したり、実施事業の見直しを行います。



4-4. 広報方針

(1) 基本的な考え方

市民等とまちをつなぐ結節点として、公益フロアのコンセプトや利用ルール、開催されるイベントなど様々な情報を多様な情報媒体を活用して発信し、公益フロアの統一的なイメージ形成を展開することにより、多くの市民等に公益フロアへの興味・関心を促し、公益フロアへの来訪、イベントへの参加など利用拡大を目指します。また企画・運営や事業への参加・参画を促すとともに、市民活動に対する関心と公益フロア・国分寺市への愛着を喚起し、いつでも集い、語り合える公益フロアとして広く周知します。

(2) 広報の手法

広報の手法としては、以下の手法が考えられます。

1) ロゴ，全体デザインの展開

公益フロアのイメージを表現し、統一したデザインを用いることで、市内外その他施設との差別化を図ります。また、各情報媒体に露出する際に公益フロア全体での統一感を出します。

2) 施設パンフレットの作成・配布

公益フロアの情報積極的に公開し、事業や運営内容の周知を図ります。パンフレットを作成・配布し、公益フロアを利用したイベント等が盛んに企画・実施されるよう周知します。

3) ホームページやSNSなどの多様な情報媒体の活用

市内外の多様な年代層の方に広く情報を発信するため、紙媒体だけでなく、ホームページやSNSなどを活用し、随時更新することにより、公益フロアの事業計画等について速やかに情報提供します。また、自主事業や市民等との共催事業についての募集や、市民等意見の把握などにも活用します。

4) 独自情報媒体などの作成

一定の期間ごとに発行する情報媒体で、事業に対する市民等の期待感の醸成を図り、公益フロアの事業に参加したい市民等の増加につなげるとともに、たくさんの市民等に公益フロアの情報の周知を図ります。

5) 各種プロモーションの展開

開館記念事業などにより、公益フロアの開館をアピールします。また、利用実績などを紹介するアニュアルレポート等を発行し、メディアへのプレスリリースを積極的に行います。

※アニュアルレポート：事業年度終了後に作成する報告書

4-5. 収支方針

(1) 基本的な考え方

1) 環境負荷・ランニングコストの軽減と効率的な施設管理

国分寺市では環境基本計画において「未来の子どもたちへ引き継ぐ こくぶんじの豊かな環境」を望ましい環境の将来像に掲げ、「資源が循環し、エネルギーが有効に利用される地球にやさしいまち」を基本方針として示しています。省エネや効率の良い施設管理とすることで、国分寺市の良好な環境を守り、将来世代に引き継いでいける施設としていきます。

また、警備、清掃、設備の保守点検などの専門的な知識・技術が必要な業務については、安全・安心な運営を最優先とした効率的で適切な施設管理を行うことで、ランニングコストの軽減に努めます。

2) 自主財源の確保

公益フロアの健全で持続可能な運営について、指定管理者においては、指定管理費だけでなく、貸館事業等の収入、ならびに自主事業等の実施により得られた収入なども重要な財源となります。そのため、指定管理者は積極的に公益フロア利用の促進、稼働率や事業参加者の増加を図り、自主財源の確保に努めます。

また、民間活用スペースで得られた収入についても指定管理者の収入となる仕組みを検討します。

3) 助成金・協賛金の活用

各機能で自主事業を行うにあたっては、自主財源の確保のほか、国や財団など市外からの助成金・補助金の活用を積極的に行います。また、事業者等と共催して事業を企画し協賛金を集めるなど、指定管理費を最低限におさえるよう努力します。

(2) 収支項目

指定管理者制度を導入する場合、指定管理者においては以下のような収支項目となることが考えられます。

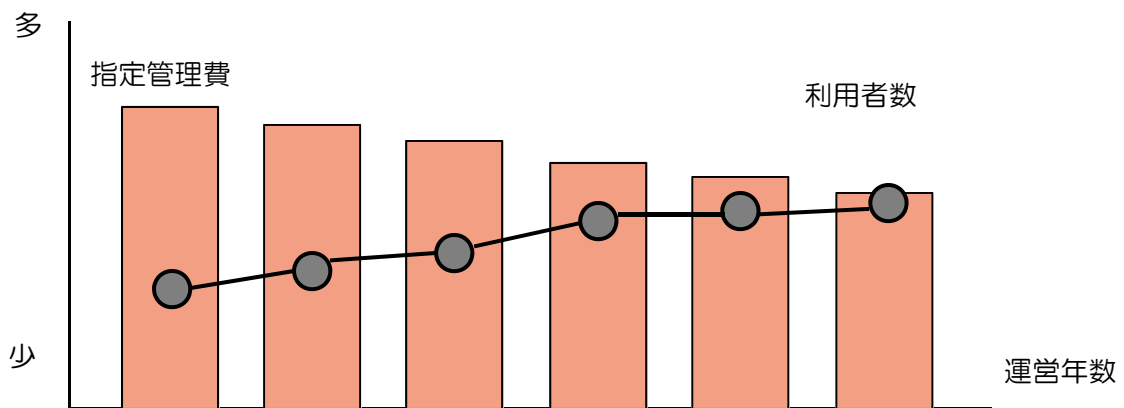
収入項目	支出項目
①指定管理費	1) 人件費
②使用料収入	2) 事務費
③自主事業等収入	3) 施設管理費
④民間活用スペース収入	※光熱水費、清掃費、修繕費、警備費、保守点検費
⑤助成金等	4) 自主事業等費用
⑥その他の収入	5) 租税公課
	6) その他

②については、今後、指定管理者が効果的かつ効率的なサービス提供を行うことができるよう利用料金制度の導入を検討します。③④⑤は、基本的には、指定管理者による自主事業実施を促進するための収入になりますが、収入の一定割合は市に還元し、市の財政負担を軽減する仕組みを検討します。

(3) 目標モデル

4-1. 企画・運営方針のとおり、公益フロアは国分寺市の魅力を発信するスペースであり、オープン後数年は、公益フロアの利用者を増やすために、自主事業や市民等との共催事業を積極的に企画・運営していく必要があります。そのため一時的に指定管理費はかかりますが、利用者数が増え、自主事業や市民等との共催事業を通して、市民等とともに魅力を発掘・発信していくことで、市民等の交流が新たな文化を生み出し、市民等が自発的に企画・運営に参画できる仕組みを整えます。そして、さらに新たな利用者が増え、指定管理者の収入が増えることにより、結果として指定管理費の削減につなげていくよう努めます。

【目標のモデルイメージ】



4-6. 今後のスケジュール

開館までの今後のスケジュールについては、以下に示します。

年度	内容
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none">・実施設計・管理運営要領作成・指定管理者の公募，選定手続開始
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none">・内装工事等・指定管理者の指定，協定締結・公の施設の設置条例制定・広報活動開始
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none">・公益フロアオープン